



敷田年
治標注

古事記標註

上卷之下

リ伊5
1013
3

リ 5
1013
3



利 372

門 伊 5
號 10/9
卷 9

東 古
學 校

○阿遲鈕高日子根神紀小味

古事記標注上卷之下

敷田年治謹注

考ふし、記傳ハ
 鉦字をシキト
 上ハ、理ハ
 高日子根ハ
 何とも稱名ハ
 ○高比賣命高
 ハ稱名あり○
 下光比賣命下
 光ハ、美麗の稱
 之、万葉十八小
 多知婆奈能之
 らぶ山志とてを
 神式の神賀詞ハ
 式ハ、大和國葛上郡高鴨阿治須岐託彦根命神社とあり、今同郡神通寺村ハ、

故此大國主神娶坐宵形奥津宮
 カレコ オホクニ スミノ カミ、ミアヒテ マス ムナカクノ オキ
 神多紀理毘賣命生子阿遲以
 カミ タ キ リ ビ メノ ミコトニ、 ウミセルミコ ア 以
 鈕高日子根神次妹高比賣命亦
 スキ タ カ ヒ コ 子ノ カミ、 ツキニ イモ、 タカ ヒ メノ ミコト、 マシ
 名下光比賣命此之阿遲鈕高日
 ミナハ シタテル ヒ メノ ミコト、 コ ノ ア 下 スキ タカヒ
 子根神者今謂迦毛大御神者也
 子ノ カミ、 ハ イマ マラス カモノ オホ、 ミカミト カミナリ

紅葉一ふり、紀亦名を、推國玉とあり○迦毛大御
 乃命乃御魂乎、葛木之鴨能、神奈備尔坐、とあ
 多且天、金葉集ハ、神志月、志ぐれく、あ、ふ、く

○古事記標注上卷之下

○一

在り、大和志不
見むたり。○神
大國主神、亦娶神、屋楯比賣命、生
親傳ちり、子、事代主神、亦娶八嶋牟遲能神
義も詳あらず、自牟下三
○事代主神記、字、以、音、之、女、鳥耳神、生子鳥鳴
傳ふ師説を引、海、神、訓、鳴、云、此、神、娶、日、名、照、額、田
て、事代主神の志、留、志、あり、と、毘、道、男、伊、許、知、邇、神、田、下、至、邇、皆
云、まじり、理、あり、以、生子國忍富神、伊、下、至、邇、皆
按ふ事ハ、言、以、音、八嶋牟遲能神の、八嶋ハ、八嶋士奴美神ニ注せらる、如、牟遲ハ、御舅の轉じて、
大穴牟遲命の、下、云、り、○鳥耳神、和名抄大和國葛上郡下鳥下鳥と云、郷名
あり、此、地、由、何、御、名、耳、ハ、御、女、の、轉、あ、る、一、○鳥鳴海神、鳥ハ、御、母、の、名
を、襲、ひ、鳴、海、ハ、地、名、尾、張、目、成、海、と、云、る、所、あり、○日名照額田毘道男伊
許知邇神、日名照ハ、記傳不夷照みて、遠國にて、御威の輝を、云、と、云、り、額田ハ、地

名あり、大和國平群郡不額田野、額田寺あり、同國山邊郡不額田邑、何、まじり、式、不
伊勢國桑名郡不額田神社、和名抄不額田朝明郡額田郷あり、毘道も地名あり、
一、式、不、同、國、多、氣、郡、火、地、神、社、伊、賀、國、伊、賀、郡、比、地、神、社、あり、記、傳、不、男、下、小、神
之、女、を、脱、し、り、と、云、り、然、も、あ、る、一、伊、許、知、邇、ハ、考、あ、る、一、○國忍富神、出雲風
土記不須佐能命の御子不、國忍
別命と云、る見、何、まじり、稱、名、
○葦那陀迦神、此、神、娶、葦、那、陀、迦、神、自、那、下、三、亦
姓氏錄額田部、宿稱、下、小、明日、名、八、河、江、比、賣、生、子、速、甕、之、多、氣
名、門、命、まじり、見、也、○亦、名、八、河、江、比、賣、の、亦、名、
江、比、賣、の、亦、名、八、之、女、を、誤、き、
子、甕、主、日、子、神、
諸、祝、詞、不、伊、加、志、夜、久、波、敷、能、如、久、と、り、り、不、よ、り、て、稱、名、不、や、と、云、り、○速、甕、之、
多、氣、佐、波、夜、遲、奴、美、神、の、速、甕、多、氣、何、まじり、稱、名、不、佐、波、夜、ハ、雄、略、紀、不、緯、矣、を、サ

○古事記標注上卷之下

○二

ハヤカニシテ、とよみ、塵添壺囊抄、サハクシト云、ハ、約十ル心ナリ云々、源氏
 夕霧、ふさもやき路、むさも何りて云々、うく、執意の美称あるべし、暹ハ舅不
 て、奴美ハ、八嶋士奴美の下、注せり。○天之甕主神、惣て稱、名々。○前玉比賣、式
 不伊豆国賀茂郡、佐伎多麻比咩命神社、武藏国埼玉郡、前玉神社。○甕主日子神
 ハ、外祖父の御
 名、小よれり。○**此神、娶、淤加美神、之女、比那良志**
 淤加美神、ハ、上
 小履見、**毘賣、此神、名生子、多比理岐志麻**
 ○比那良志見
 賣、考多、○多
 比理岐志麻流
 美神、多比理考
 美、ハ、岐志麻流
 記、小、伎自麻都
 美命、何、是、**神、美呂二**
 ○比々羅木之、其花麻豆美神、比々羅木ハ、和名抄、杜谷樹をよめ、比々羅木
 之ハ、尋、下、併見、**女、活玉前玉比賣神、生子、美呂浪**
 之、**其花麻豆美神**
 流、**美神、此神、名生子、多比理岐志麻**
 之、**其花麻豆美神**
 女、**活玉前玉比賣神、生子、美呂浪**
 神、**美呂二**
 字、**以、音**
 之、**其花麻豆美神**
 下、**三字、以、音**
 之、**其花麻豆美神**
 下、**三字、以、音**
 之、**其花麻豆美神**
 下、**三字、以、音**

く○美呂浪神、記傳、小和名抄、上野国佐位郡、美
 侶、郷、何、浪、ハ、借字、不、那、也、美、も、稱、名、と、云、リ
 ○敷山主神、式
 小、越、前、目、今、立
 郡、敷、山、神、社、何
 り、○青沼馬沼
 押、比、賣、青、沼、馬
 ハ、甲、斐、信、濃、等
 小、青、沼、と、云、る
 地名、何、久、沼、押
 ハ、主、忍、り、○布
 忍、富、島、鳴、海、神
 布、忍、ハ、越、中、安
 藝、寺、小、布、師、と
 云、了、地名、何、ま、と、猶、御、母、の、沼、押、の、轉、ま、り、
 留、ハ、稱、名、鳥、鳴、海、ハ、記、傳、小、六、世
 祖、と、同、名、ま、り、ハ、此、神、ハ、鳥、郷、小、由、何、の、小、や、と、云、り、○若、畫、女、神、神、代、紀、小、推、日
 女、尊、坐、于、齋、服、殿、と、あり、同、神、ま、り、
 一、小、丈、也、○天、日、腹、大、科、度、美、神、天、八、尊、稱、日、腹、ハ、地名、ま、り、
 ○古事記標注上卷之下
 ○三

此神、娶、敷山主神、之女、青沼馬沼
押比賣、青沼馬
神、娶、若畫女、神、生子、天日腹、大科
度美神、度美二
之、女、遠津待根神、生子、遠津山岬
多良斯神

佐郡日原神社あり、大科詳ならず、度美ハ、留して稱名之○天狹霧神上よ見色たり、此神の女も、御靈の娘子に化して、婿よせしは、記傳の説、思ふたがへり○遠津待根神、遠津ハ、地名あり、一、名寄ふハ、近江国とあり、待根ハ、記傳ふ、借字ふて、麻ハ、真、知泥ハ、稱名と云リ○遠津山岬、多良斯神、遠津ハ、御母の名よよまり、山岬も和名抄ふ、美濃国石津郡山崎郷あり、多良斯ハ、足の延語ふて、稱名也

○八嶋士奴美 右件、自八嶋士奴美神以下、遠津命、櫛名田比賣、山岬帶神以前、稱十七世神

御子あり、是より、大國主神まで、六代の世系ハ、上ふ是也、
たり○十七世、今數見ふる、十五世あり、記傳ふも、然云、
○御大、和名抄、故大國主神、坐出雲之御大之御

郡、美保郷あり、前時、自波總、乘天之羅摩船而、内、大も才ホの略、剥鵝皮、剥爲衣服、有歸來神

穂、神武紀ふ、浪、秀とあり、浪の白く起を云、○天之羅摩船、天を尊稱之、羅摩ハ本草和名ふ、蘿摩子、加々美と注せり、是ハ蔓草也、一名范蘭と云、山野に繁延ふて、ガガラビと云、越後ふて、ガンガラビと云、出雲ふて、カラスナへと云、駿河ふて、ガワガメと云、出羽ふて、ゴガラビと云、伊豫ふて、ハンシヤと云、筑前ふて、カブナと云、備前ふて、シコヘイと云、大和本草ふ、シガイモと記、諸国方言ハ京都ふて、ラマサワと云、一を記、和漢三方圖會ふ、カシキとよみ、紀ふ以白薇皮為船とあり、白薇ハ、醫心方ふ、也、未加々美と注せまじ、本草啓蒙ふハ、和産ナシと云リ、此外、白及、石胡荽、鹿蹄草等をも、カガニグサと云、まじ、何まふは、是、紀ふより、思ふ、此草の皮を以て、船を為るとあり、木を結束、て、筏の如きやうの物に乗、路ふ、と見ゆ○鵝皮の、鵝ハ、字音の、ハ、ガとよむ習、まじ、オホトリとよむ、一、然例ハ、播磨風土記、揖保郡大鳥山、條ふ、鵝、此山、故名大鳥山、とあり、羽ふ、皮を剥て、衣と為、記傳ふ、此鵝、字を、鵝の誤りとして、ヒムシと訓、羅摩の、裂て、舟ふ、似たり、乗、路ふ、状ふ、説々、尤、一、大海外、方、因、の、涉、り、經、營、路、ふ、一、功、一、き、神、一、坐、一、を、神、身、の、長、を、豆、粒、を、一、う、り、ふ、思、ら、む、ハ、如、何

○古事記標注上卷之下

爾雖問其名、不荅、且雖問所從之

と懸居翁云り、カミタチニ、三ナマヤシキ
万葉五、多クハ、諸神、皆白、不知、爾多、邇且、久、白言
具ク能、佐和、多、自、多、下、四、此者、久延、毘古、必知之、
流、伎、波、美、祝、詞、字、以、音、即、召、久延、毘古、問、時、答、白、此者、神
式、小、谷、蟻、を、よ、ス、ハ、チ、メ、シ、テ、ク、エ、ビ、コ、ラ、ト、ビ、エ、フ、ト、キ、ニ、マ、フ、シ、キ、コ、ハ、カ、ミ
み、久、是、ハ、蟾、蛤、と、云、云、その、つ、ふ、て、産、巢、日、神、之、御、子、少、名、毘、古、那、神
和、名、抄、小、比、木、と、注、一、上、方、小、自、毘、下、三、
て、ヒ、キ、ガ、ヘ、ル、字、以、レ、音、と、云、伊、勢、あ、て、ヒ、キ、ゴ、と、云、信、濃、山、て、ト、ン、ビ、キ、と、云、上、野、ふ、て、オ、ホ、ヒ、キ、と、云、上
怒、ふ、て、オ、カ、マ、ガ、ヘ、ル、と、云、四、国、ふ、て、ク、ツ、ヒ、キ、と、云、豊、後、ふ、て、ワ、ク、ド、と、云、る、を
の、あ、り、記、傳、ふ、谷、と、ハ、物、の、ま、は、開、ふ、居、故、あ、り、具、久、ハ、鳴、聲、ふ、よ、ま、く、と、云、り、○
久、延、毘、古、ハ、濱、彦、あ、り、べ、一、次、ふ、注、○、少、名、毘、古、那、神、紀、小、少、彦、名、命、ふ、作、れ、久、是
た、大、名、持、小、對、を、る、御、名、ふ、て、毘、古、も、那、も、親、を、稱、
た、る、と、播、磨、風、土、記、ふ、少、日、子、根、ふ、作、ま、り、同、義、く、
○、白、上、ハ、御、祖、カ、レ、コ、ニ、マ、ラ、シ、ア、ゲ、シ、カ、カ、ミ、ム、ス、ビ、三、オ、ヤ、ノ、三、コ、ト、ニ、バ、
命、の、御、許、ふ、白、故、爾、白、上、於、神、産、巢、日、御、祖、命、者、

て、少、名、毘、古、那、命、を、率、上、つ、と、
見、あ、り、文、の、状、
あ、り、實、我、子、也、
と、り、ら、ふ、て、御、
祖、命、目、前、ふ、見、
終、ふ、お、も、む、き、
く、久、岐、斯、ハ、
漏、一、ふ、り、手、俣、
と、ハ、指、間、の、事、
ふ、じ、あ、ま、じ、是、ハ、今、も、手、を、渡、ま、て、又、手、を、扱、て、あ、ど、云、ふ、お、お、ふ、ト、紀、小、置、事、中、
と、あ、り、ハ、書、紀、標、注、ふ、云、一、の、爲、兄、弟、按、不、世、ふ、夷、大、国、と、云、て、毎、家、小、祭、ま、ら、
ハ、大、国、主、神、と、少、名、毘、古、那、神、二、柱、あ、り、づ、一、大、国、主、神、を、大、国、と、稱、ハ、誰、も、思、ふ、
得、つ、ろ、を、少、名、毘、古、那、神、を、禊、と、一、も、稱、せ、ら、ハ、次、小、度、于、常、世、用、と、あ、り、づ、と、く、
外、目、を、造、路、ふ、一、也、名、ふ、夷、目、神、あ、り、と、云、義、あ、り、今、小、相、並、坐、せ、ら、ハ、
御、兄、御、弟、と、契、は、し、一、神、代、の、古、傳、の、お、ほ、り、ら、あ、り、づ、ま、り、を、お、も、へ、
○、常、世、用、ハ、記、
傳、小、底、依、目、と、
然、後、者、其、少、名、毘、古、那、神、者、度、于、
○、古、事、記、標、注、上、卷、之、下、
○、五、

○古事記標注上卷之下

云り、神代紀云、**常世國也、故顯白其少名毘古那**
目常立尊の一、**神、所謂久延毘古者、於今者、山田**
名を、因底立尊と稱せり、常と稱せり、**之、曾富騰者也**
底ハ、相通一ケ、**之、曾富騰者也**
叔底とハ、何方

小師を、遠極を、伊邪那美命の坐し、夜見國を、底國と云、るをも併思ふべし、
此件あり、常世國ハ、皇國を放きて、遠き方國等を云、る、惣名あり、此神海外各目
を、經、學、修、世、不、夷、神と稱せり、又、右、不、法、子、カ、如、一、〇、山、田、之、曾、富、騰、ハ、鳥、獸、を
怖、す、と、め、ふ、立、た、ふ、鳥、お、ど、り、て、案、山、子、と、も、云、る、是、は、久、名、義、ハ、記、傳、ハ、雨、露
不、所、濕、そ、ぼ、つ、の、意、く、と、云、り、後、不、轉、て、ソ、ホ、ゾ、と、云、る、ハ、後、撰、集、ハ、あ、と、暮、ら、し、
守、る、田、の、を、か、く、せ、つ、、秋、野、の、つ、の、身、と、ぞ、あ、り、ぬ、る、下、學、集、ハ、備、中、國、温、川
寺、玄、賓、僧、都、始、造、焉、故、世、俗、名、之、謂、僧、都、と、云、る、ハ、非、く、僧、都、と、ソ
ウ、ツ、不、行、假、名、も、遺、ふ、且、神、代、一、ク、有、る、を、去、る、を、云、せ、説、く
〇、足、雖、不、行、也、**此、神、者、足、雖、不、行、盡、知、天、下、之、事**
倭、建、命、薨、時、カ、カ、ミ、ナ、リ、
處、ハ、蘇、良、波、由、カ、カ、ミ、ナ、リ、
賀、受、阿、斯、用、由、カ、カ、ミ、ナ、リ、
神、也、於、是、大、國、主、神、愁、而、告、吾、獨

久那、櫻、葉、記、云、**何、能、得、作、此、國、孰、神、與、吾、能、相、作**
強、大、ノ、族、聊、足、
不、行、淮、南、子、
主、術、訓、云、非、能、
此、國、耶

目見而足行之、**是、時、有、光、海、依、來、之、神、其、神、言、能**
やと、問、お、お、せ、と、ま、り、時、此、件、の、う、ど、も、を、答、た、り、き、猶、云、バ、無、仁、紀、云、足、行、
尺、名、も、見、返、と、り、〇、知、天、下、之、事、神、也、是、ハ、深、故、あ、る、べ、を、ま、と、
知、ぐ、と、一、彼、人、形、を、神、と、稱、ま、ど、今、ハ、奇、一、き、業、も、開、五、ず、ま、ん

〇、有、光、海、依、來、**是、時、有、光、海、依、來、之、神、其、神、言、能**
之、神、古、の、處、不、
紀、不、大、已、貴、神、
曰、然、則、汝、是、誰、
耶、對、曰、吾、是、汝、
之、幸、魂、奇、魂、也、
大、已、貴、神、曰、唯、
然、迺、知、汝、是、吾、
之、幸、魂、奇、魂、今、
欲、何、處、住、耶、と、
治、我、前、者、吾、能、共、與、相、作、成、若、不
然、者、國、難、成、爾、大、國、主、神、曰、然、者、
治、奉、之、狀、奈、何、答、言、吾、者、伊、都、岐、
奉、于、倭、之、青、垣、東、山、上、此、者、坐、御

古事記標注上卷之下
〇六

あふを此記ふ
ハ脱せり○我 諸山上神也

前記傳ふ前ハ、彭と同く、本其神の、御座位を指て、云言あり治我前とハ、即治
我と云予くと云、○難成をナリガテとよめるハ、万葉不例お母一○青垣山
ハ、青山の垣の如く廻るを云、○伊都岐奉ハ、齋奉るく○御諸山上神の、御諸
ハ御室にて、神の御室の、何ぞ、由名名とす、式ハ大和国、城上郡大神、大物主神
社あり是く○
神活須毘神の 故其大年神、娶神活須毘神之女、
神活ハ、共小尊 伊怒比賣、生子、大國御魂神、次韓
稱く、按上上、 熊野久須毘命、
あま、バ、羨も活、神、次曾富理神、次白日神、次聖神
久須毘、と有り 五
々むを、同言の 神
重りて、略、うり、考づー○伊怒比賣、式ハ出雲国、出雲郡伊奴神社○大和
御魂神記傳ふ、其国を作り、功あり、を、国魂とも、大和魂とも申て、并祀るくと云
り式ハ大和国、山邊郡、大和大国魂神社と有り○韓神、大和志、添上郡、條、小韓神
在南都漢国町と有り、本加良く、地名を、負奉るも、ありづー○曾富理神ハ、大

和国の、郡名よまきり、御名ありづー、和名抄ふ、添上、曾不乃加美と注一神武紀
ハ、層富縣とありを、後上下下、命たり、叔添を、ソホリとよめるハ、神代紀ハ、添
山、此云曾褒里能耶麻、と注せざるを、證とすづー、式ハ宮内省、坐、園、神社、韓神社ハ、
此神を祭り、と察也○白日神考あり、河内志、高安郡ハ、白飯瀑有り、シラヒと
よきて、御名ハ、原、奉まきり、記傳ハ、式ハ山城国、乙訓郡、向神社ハ、今向日明神と
申す、白、字ハ、向の誤、ふて、牟加比、ありづー、と云、○聖神式ハ、和泉国、和泉郡、聖
神社、古の神を、舊事紀ハ、大國主命之子、と有り、千載集の序ハ、延喜のむとりの
と世、万葉一ハ、檀原乃、日知之、御世、とありハ、天皇を申奉りて、聖とハ、日の御靈
の、御心をも、伺、知奉ると、云、意まきむ、殊ハ、靈き、御徳、の云、あり、後拾遺集ハ、
書寫のむと、今葉集ハ、何とどのむと、拾玉集ハ、山寺のむと、平家物語ハ、
高野のむと、あり、ちど、云、ハ、中昔より、僧侶をよよま
きとの、ふ、思ひて、如此、云、ま、尊稱あり、予を知づー
○香用比賣、香 又娶香用比賣、此神名 生子、大香
をカ、と、仮名 又娶香用比賣、以レ音 又娶天知
ふして、用、ハ、山 戸臣神、次御年神、柱、又娶天知
例ハ、和名抄ハ、 迦流美豆比賣、訓、天如、天亦、自
備前国、和氣郡 迦流美豆比賣、知、下、六、字、以、音、生
郷名、香、止、加、カ

○古事記標注上卷之下

止阿波国阿波
郡、郷名香美、如
如美、あどく、是
ハ容貌の光曜
義あつたづー
大香山戸臣神
神者也

大ハ稱名香え御母の御名ニ依りて、戸モ記傳ふ、處の意とて、山里を開きて、民の住べき處ハ、功有りたるや、と云て、臣ハ稱名あり○御年神ハ、父神とおふ、迎流美豆比賣の天知ハ、上の日知とおふ、尊稱あり、迎流ハ、大和国高市郡の地名、美豆ハ、まづく、さき意にて、稱名く、注の知下ハ、記傳ニ迎下、の誤と云り○奥津日子神考ふ、若地名ハ、依りて、御名とせば、和名抄駿河国、廬原郡、息津郷、阿久、安房国長狭郡、置津郷、阿久、又和泉国日根郡、沖津濱、阿久○大戸比賣神、記傳ハ、戸ハ、竈のつくと云り、黄泉戸契、下考、合、べー○以持ハ、上ハ、伊都岐奉と、阿、まおあど○竈神和名抄ハ、竈、炊爨處也、如萬とあり、万葉五、可麻度柔、播、火氣布伎多豆受、云々、記傳ハ、可麻度ハ、竈、處ありと云り、扱竈ハ、竈、ふて、金をカマと云り、ハ、竈、より轉、たる名ふて、古、ハ、金をバカナ、と云て、即、銅、類、ふり、記傳ハ、釜ハ、朝鮮言、と云り、然、る、て、訓、蒙、字、會、の、謄、文、ハ、釜、を、下、叶、と、注

せり嘗も千七とあまバ、彼国の方言ありと思つど、是ハ焚處ふて、拾玉集ハ、朝カ、柴をりくぶる、とも阿まバ、扱大膳職等ハ、祭王ハ、竈神ハ、神辨ハ、金、竈、坐、む、他、所、不、遷、奉、る、時、の、昇、夫、又、此、神、を、祭、る、の、最、あ、つ、た、史、及、記、録、等、不、見、也、たり

○大山咋神、大山、日吉山を云、昨ハ借字ハ、活、哉、神、の、杖、ハ、あ、つ、た、あ、つ、た、

次、大山、上、咋、神、亦、名、山、末、之、大、主、神、此、神、者、坐、近、淡、海、國、之、日、枝、山、亦、坐、葛、野、之、松、尾、用、鳴、鏑、神、者、也

阿、ハ、記、傳、ハ、山、咋、と、連、く、讀、聲、と、云、り、○山、末、之、大、主、神、山、末、ハ、頂、を、云、大、枝、詞、ハ、高、山、末、短、山、末、と、阿、り、大、主、ハ、山、の、主、と、坐、せ、る、義、之、○日、枝、山、式、ハ、近、江、國、滋、賀、郡、日、吉、神、社、と、阿、り、僧、最、澄、之、の、山、ハ、延、暦、寺、を、建、む、と、て、日、吉、神、社、を、山、麓、ニ、建、奉、り、山、王、と、稱、山、末、之、大、主、と、云、り、神、名、も、隠、る、果、た、る、ハ、憤、ろ、く、○葛、野、和、名、抄、ハ、山、城、國、郡、名、葛、野、加、止、乃、と、あり、應、神、段、ハ、知、婆、能、加、豆、怒、衣、美、禮、婆、と、あり、上、代、文、カ、ヅ、又、と、云、ま、む、○松、尾、式、ハ、松、尾、神、社、と、あり、○用、鳴、鏑、神、者、記、傳、ハ、用、字、ハ、成、又、化、の、誤、り、然、ハ、用、鳴、鏑、神、と、訓、へ、又、用、ハ、丹、字、の、誤、り、丹、鳴、鏑、ハ、丹、塗、矢、ハ、思、ひ、よ、り、た、る、推、量、

○古事記標注上卷之下

説ふれバ信シがごとく、舊事紀、又釋記ニ記せりも、此記と云ふトヤレバ、用字ハ誤、
ハハあり、此社の子を、二十二社注式ニ記せりハ、文武天皇大寶元年、秦都
理ガ奉勅請トあり、其時鳴鏑ヲを用ハり、ありと察シ、採用の仮名ハ未定らざ
まど、モチとあり、論ハきハ、經衡集ニ餅をおますとて、青ハもあまど、
此中ニ心ハつりバ、是をもちよ、返シ君ガ世を、心もちむのうまハハ、
ちり人の情ありらむ、餅を用ハ兼テち、歌ヲおほり、然レ餅も、用も、モチ并ハ、
誤シと云むり、定頼集ニ物名餅、ありつゝ、海士ノ志ヲさも、ちむる足
るめ、あくむ、可ハあハトヤハ、如此海人之所為モ、千尋ト係レたり、
慥ニあり、是ハ波行、一段と云、活用ハて、空穂物語、藤原君ハ高き位も、ちひるべ
り、ず、蜻蛉日記ニ夢をも、佛をも、もちひるづハヤ、もちむるハヤ、とあり、
の外猶引ハ違あり、と、委

ハ仮名沿革ハ、女ハ、おろり
○庭津日神の、ツギニニハツツヒノカミツギニ
日ハ火の借字、次庭津日神、次阿須波神、此神、名
にて、庭火神、ハ、次波比岐神、此神、名、次香山戸臣
文徳實録ニハ、次波比岐神、以レ音、次香山戸臣
庭火皇神トあり、カミツギニハヤマトノカミツギニニハタカツヒノカミツギニ
り○阿須波神、神、次羽山戸神、次庭高津日神、次

和名抄小越前 大土神、亦名、土之御祖神九

須波式ハ、同郡、足羽神社リ、すく座摩、御巫祭、五座の中ニも、見ニ西ニたり、此神屋
庭を守、由ハ、万葉世ニ附テ、人ノ哥ニ、ハ、波奈加能、阿須波、乃可美、古志波佐、阿
例波伊波、年加倍理、久麻佐、○波比岐神考ハ、此神も、座摩御巫祭、五座の
中ニあり、○香山戸臣神上の大香山戸臣神と、おなド功の神ニあり、○羽山戸
神、記傳ハ、羽ハ速ニて美称あり、香山戸と、同功徳の神ニあり、と云り、○庭高
津日神ハ、御兄と、おなド、御功の坐ニあり、○大土神、記傳ハ、民の佃地の
土ハ、功ハ、あり、カミツギニニハヤマトノカミツギニニハタカツヒノカミツギニ
神トと云り、但、上件、大年神之子、自、大國御魂神、タマ、カミ
大ハ神ハ、係レる、以下、大土神以前、并十六神、オホツツノカミ、アセテ、トラマリムハシラ
英称ハ、土ハ、以下、大土神以前、并十六神、オホツツノカミ、アセテ、トラマリムハシラ
ハ係レる、亦名も同義ニあり、○九神ハ、天知地流美豆比賣の御腹の神達ニあり、男神
の限りを敷ナり、○十六神ハ、御三腹の神達を、合テ、敷ク、此數も上ニあり、ト
○大氣都比賣、羽山戸神、娶大氣都比賣神、自、氣
神ハ上ニ注リ、ウミヅルミコ、ワカヤマクヒノカミツギニ、ワカトシノカミツギニ
此神の御靈現、字、以、生子、若山咋神、次若年神、次
娘子ハ、あり、音、

○古事記標注上卷之下

御令訪つるふ
 ろづー○若山
 昨神の若ハ上
 不おふり○若
 年神御伯父大
 年神不對て、若
 と申せり○若
 沙那賣神の若
 ハ美称く沙那
 ハ地名り、式不
 伊勢国多氣郡佐那神社、但馬国朝來郡、佐囊神社あり、三代實錄廿六、伯耆国
 天乃佐奈咩神とも見ゆ○彌豆麻岐神ハ地名不依まら御名久、神麻抄、安西
 郡水卷神田、と見延らり○夏高津日神夏とハ生坐し時を、御名不負奉まらり、
 高津日ハ上、不庭高津日と、あるふおふり○夏之賣神上、不おふり○秋毘賣神
 凡、生坐し時を、依まら御名あるふづー○久久年神、記傳不久久々々並こと云、久、年
 ハ猶不て、御凡若年神と、御同功の神ありべー○久々紀、若室葛根神、記傳不久
 々々上、あるふと、同く、紀ハ木ありと云、若室ハ家を祝たる詞にて、顯宗紀、不雅
 室葛根とあり、蔓を古言ふ、ツ又と云、蔓葛をツナとて、幾、因め來作せり、古

妹若沙那賣神、自レ沙下三
 次彌豆
 麻岐神、自レ彌下四
 次夏高津日神
 亦名、夏之賣神、次
 秋毘賣神、次久
 久年神、久久二
 次久久紀、若室葛
 根神、久久紀三
 字以レ音

語拾遺、小、番繩
 之類、謂之網根、
 と云、る説ハ、誤
 以下若室葛根神以前、并八神
 以上件、羽山戸神之子、自若山咋神

云、らハ古言く、此葛根も、唯葛と云、るふ、根を添、たるのく、ふて、木をキ子、弟をホ
 コ子、と云、るふおふり○八神、是ハ男女の神達を、惣たる數、よて、上と異あり
 ○千秋長五百
 秋云々、葦原て
 又千秋五百秋
 爾、あど、惣て、御
 世の長く、遠き
 所、知國、言因賜而、天降也

天照大御神之命、以、豐葦原之、千
 秋、長五百秋之、水穗國者、我御子、
 正勝吾勝、勝速日、天忍總耳命之、

乎を、水穗國へ係て、祝云、る上代の雅言く○水穗國ハ、ミヅク、ミヅ、稲穂の生、榮
 ち、目と云、る義あり、抑海外諸蠻ふハ、稻穀あり、唯支那、印度、ふ、ミヅク、作、産、サ
 るを、近年交易、了、事始、て、元治慶應の間、三五年を、うり、異國米、了、その、を、持
 渡、來、つ、形を細長く、味、の、廣、あ、ら、ハ、我三四十年米、ふ、劣、ま、り、然、を、我、佳、穀、ふ、喰、比

○古事記標注上卷之下
 ○十

見、始、水總國と、眞、名義の、おぼろけ、を、曉り、えつ、あ、
き、數、百、万、歳、の、上、世、あ、り、て、う、る、事、實、を、既、あ、き、り、め、
が、と、ま、し、の、ぞ、記、傳、ふ、皇、御、國、ハ、萬、異、國、
し、と、云、お、り、ハ、千、歳、不、朽、の、卓、見、ふ、
○多、多、志、ハ、立、
の、延、語、
多、又、も、甚、く、
○佐、夜、藝、豆、ハ、
騷、て、お、お、
万、葉、世、ハ、
賀、波、乃、佐、也、久、
志、毛、用、爾、と、
も、世、之、葉、の、
騷、々、霜、夜、
○神、集、の、神、を、
神、の、為、
云、何、く、集、ハ、大、

於、是、天、忍、總、耳、命、於、天、浮、橋、多、多、
志、此、三、字、而、詔、之、豐、葦、原、之、千、秋、
長、五、百、秋、之、水、總、國、者、伊、多、久、佐、
夜、藝、豆、此、七、字、有、祁、理、此、二、字、以、
告、而、更、還、上、請、于、天、照、大、御、神、爾、
高、御、產、巢、日、神、天、照、大、御、神、之、命、
以、於、天、安、河、之、河、原、神、集、八、百、萬、

見、始、水總國と、眞、名義の、おぼろけ、を、曉り、えつ、あ、
き、數、百、万、歳、の、上、世、あ、り、て、う、る、事、實、を、既、あ、き、り、め、
が、と、ま、し、の、ぞ、記、傳、ふ、皇、御、國、ハ、萬、異、國、
し、と、云、お、り、ハ、千、歳、不、朽、の、卓、見、ふ、
○多、多、志、ハ、立、
の、延、語、
多、又、も、甚、く、
○佐、夜、藝、豆、ハ、
騷、て、お、お、
万、葉、世、ハ、
賀、波、乃、佐、也、久、
志、毛、用、爾、と、
も、世、之、葉、の、
騷、々、霜、夜、
○神、集、の、神、を、
神、の、為、
云、何、く、集、ハ、大、

被、詞、ハ、神、集、
賜、比、と、
て、集、
○道、速、振、ハ、
辭、考、ハ、
ふ、の、上、界、
と、云、リ、
も、や、
あ、る、
を、
ハ、借、字、の、
言、趣、ハ、
借、字、
紀、不、
扶、之、
仁、紀、
君、遠、
が、綿、城、を、
○古、事、記、標、注、上、卷、之、下、
○十一、

神、集、而、思、金、神、令、思、而、詔、此、葦、原、
中、國、者、我、御、子、之、所、知、國、言、依、所、
賜、之、國、也、故、以、爲、於、此、國、道、速、振、
荒、根、國、神、等、之、多、在、是、使、何、神、而、
將、言、趣、爾、思、金、神、及、八、百、萬、神、議、
白、之、天、菩、比、神、是、可、遣、故、遣、天、菩、
比、神、者、乃、媚、附、大、國、主、神、至、于、三、
年、不、復、奏、是、以、高、御、產、巢、日、神、天、
照、大、御、神、亦、問、諸、神、等、所、遣、葦、原、

天賞... 中國之天菩比神、久不復奏、亦使
何神之吉、爾思金神、答白、可遣天
津國玉神之子、天若日子、故爾以
天之麻迦古弓、自麻下三天之波
波、以此二字、矢、賜天若日子而遣
天子、字の如く稱たる名、神とふき意ハ、下不見也、三代實錄十九、天若御
子神、作り、古今集の序、ふも、あえわらゝと子とあり、○麻迦古弓、紀、天鹿見弓
天、真鹿見矢とあり、記傳、鹿見を射る由、名と云リ、鹿見とハ有是ど鹿之子
ハ、あゝず、鹿をカコト云、○波々矢、紀、天羽矢、羽作矢の畧、
ハ、下照比賣、上
下、此比賣、
作り、同神あり、
雉名鳴女の、
國主神之女、下照比賣、亦慮獲其

雉ハ鳴声、依
ま、名、名鳴
ハ正字、み、已
ガ名を鳴、
意、女、借字、
て、鷗、雀、燕、あど
の、メ、あ、る、べ、
紀、小、無、名、雉、
作、し、
ナ、キ、キ、ジ、と
訓、リ、
記、傳、
脱、
云、
の、湯、津、ハ、五、百、
津、
リ、
木、
國、至、于、八、年、不、復、奏、故、爾、天、照、大
御、神、高、御、產、巢、日、神、亦、問、諸、神、等、
天、若、日、子、久、不、復、奏、又、遣、曷、神、以、
問、天、若、日、子、之、淹、留、所、由、於、是、諸
神、及、思、金、神、答、白、可、遣、雉、名、鳴、女、
時、詔、之、汝、行、問、天、若、日、子、狀、者、汝
所、以、使、葦、原、中、國、者、言、趣、和、其、國
之、荒、振、神、等、之、者、也、何、至、于、八、年、
不、復、奏、故、爾、鳴、女、自、天、降、到、居、天

○古事記標注上卷之下

○十二

不可豆羅の訓 注あり此記の 海宮段ふも湯 津香木をも加 都良と注せり 和名抄み桂を 如加豆良楓を 乎加豆良と注 せれど此楓字 不ハ論り記 傳ふえ大の楓 を多夫と云木 不定たり多夫を漢名を天竺桂と云て本草にも載せ打見たる状ハ肉桂子異 ありぞ唯香氣の少きもの○天佐具賣紀ふ天探女不作り阿麻能左愚謎と注せ り人心を探見る意ありむ万葉三小久方乃天之探女之石船乃泊師高津者淺 尔家留香裳とあまた天より降り降里一神くり高津とハ攝津国東生郡あり地 名ふく石山城より十町許南今ハ高津村と云是仁徳天皇の帝都を敷坐一地 あり是より北石山城の間ハ二軒茶屋と云り此所深サ四五尺をり底ハ船

若日子之門湯津楓上而言委曲 如天神之詔命爾天佐具賣此三 聞此鳥言而語天若日子言此 鳥者其鳴音甚惡故可射殺云進 即天若日子持天神所賜天之波 士弓天之加久矢射殺其雉

ふ似て九十二三間程の青石あり却探女の衆一石船くと土人云り此東生西 生より河内目へ渉り握斗りの小石だふあき地ありて一石大石の埋せし をも必此石船ふて古傳のおぼろがさるるを思ふべし○波士弓紀ふ天探弓 とありて此云波草とあり按ふハジを常ニ攪字をよむ其實を蠟燭とす此 木ハ性脆く弓ふ製不堪又施字もクチナシム當り是亦弓ふハ作らざり一 種山櫛と云木あり山野に生一直立して木性黏一波士とハ此木ありべし万 葉廿二波自由美乎多爾藝利母多之云々○加久矢も上の麻迦古弓ふおちト 義くと聞ゆまハカコヤとよむべし字鏡み菘波久辺良康頼本草み王瓜比佐 久と注せり又字をコ 不よめらハ古音く

○高木神の木 爾其矢自雉胸通而逆射上逮坐 天安河之河原天照大御神高木 神之御所是高木神者高御産巢 神之别名故高木神取其矢見 死ねと詔ふ

○古事記標注上卷之下

○十三

と云り、年治云、
 麻賀礼ハ、曲マカレと
 よと云、予もて、
 死ねと云、ゆで
 小ハ、あづアズと云、ハ、
 ギ又死シと云、ハ、
 清濁違ツリつり○
 其矢穴云々、按
 小ハ、の穴ハ、高
 木神の、居イ居イゆ
 御殿の、棟ムネみま
 れ、壁カキみゆき、射
 貫スて来し、其穴
 より、衝返ツキし、後
 ふち、然シ、三
 大考オ、此大地
 小ハ、の国ハ、皆地の外表方ウハ、
 る其故を云々、射上つる矢の、穴より、衝返ツキし、降スし、ゆとあまきマあり、内裏方ウラ、

者、血著其矢羽、於是高木神、告之
 此矢者、所賜天若日子之矢、即示
 諸神等、詔者、或天若日子、不誤命
 為射惡神之矢之至者、不中天若
 日子、或有邪心者、天若日子、於此
 矢、麻賀禮、此三字、云而、取其矢、自
 其矢穴、衝返下者、中天若日子、寢
 胡床之高胷坂、以死、此還矢可
 恐之本也

国ある、此大地、不、国の、例コト、
 国より、天上へ、射イ、
 ハ、中ハ、空虚ウツ、
 ハ、其土ツチ、
 畏山、大和国伊豫国あり、天、香山等の落オ、
 已り思オモひ、
 抵持ツク、
 小臥シ、
 可畏、之縁也、とあり、記傳キ、
 ハ、後人の添ソ、
 ○諸ハ、記傳キ、
 コトを言イ、
 童識ワカ、
 事コト、
 を假カ、
 ハ、
 ギウタと云、

亦其雉、不還、故於今、諺曰、雉之頻
 使、本是也、故天若日子之妻、下照
 比賣之、哭聲、與風響、到天、於是、在
 天、天若日子之父、天津國玉神、及

○古事記標注上卷之下

○十四

其妻子聞而、降來哭悲

使是ハ其雉不還、とあるを受て、云るるれバ、行てうつうぬを、頻使とハ云り、
神代紀ハ、頻丘を、毗陀鳥と注サ入説文ハ、頻、下首也、釋名ハ、頻、僵也、ふどふ、より
て思ふハ、詩、衛風ハ、至于頻丘とハ、義理異ありて、片面の丘を云り、文選遺植
與書ハ、頻ハ、絃、以掩之、同舞鶴賦ハ、頻脩趾之淇、同陸機詩ハ、北邁頻承明、ふど
併思ふハ、頻の字義ハ、一向ハ、止返らぬ意くと聞也、舒明紀ハ、頻屈先祖之名、云
々、履中紀ハ、頻絶、不點、飼部、ふどあり、惣て哥集物語書等ハ、ヒタフル云々、ヒタ
フル心云々、ふど敷多見迄たりを、取集て、其意を味、るる、片より一向ある、予
を云、まを、頻使も、片使の義ある、予を知づ、如此くとく、注、ハ、記傳ハ、頻
使ハ、從者ふき、單使を云、と説るハ、耳ふきつ、人等ハ、論むとれど、是を單使と
見、ハ、此件の文意を、失ふづ、○哭聲ハ、泣、泣、泣、を延、云、り、○與風ハ、万葉ニハ
風之共、靡如久云々、風と共
ふと云、を、古言ハ、然、云、り

乃於其處、作喪屋而、河鴈為岐佐
理持、自岐下、三鷺為掃持、翠鳥為

御食人、雀為碓女、雉為哭女、如此
行定而、日八日、夜八夜、以遊也

ハ、人目を憚る
を、本ハ、一、て、凶
事をも云、り、女
服ハ、裳、り、又
庖、瘡、等、准、知、づ、一、万葉五ハ、事、母、無、哀、無、と云、ハ、凶をモと云、り、○河鴈、考、ふ
し、○岐佐理持ハ、魁、蛉、入、持、ハ、器、ハ、蚶、貝、を、入、て、持、一、め、た、り、然、ハ、紀、ハ、持、傾
頭、者、を、よ、め、る、も、此、記、ある、を、引、當、た、り、ふ、て、非、多、り、彼、を、バ、持、傾、頭、者、と、よ、む、づ
一、若、キ、サ、リ、モ、チ、あ、り、む、ハ、書、紀、の、例、と、一、訓、注、ある、べ、シ、理、ある、○鷺、為、掃
持、紀、ハ、持、帚、者、不、作、ま、り、記、傳、ハ、此、役、を、鷺、ハ、任、一、た、る、ハ、毛、冠、の、帚、ハ、似、と、ま、バ
之、と、云、り、○翠、鳥、紀、ハ、以、為、為、穴、人、と、あり、翠、鳥、ハ、よ、く、魚、を、捕、る、也、庖、丁、ハ、令、一、之、○
碓、女、紀、ハ、春、女、と、作、り、雀、の、躍、る、狀、ハ、春、ハ、不、似、た、り、○哭、女、字、の、如、一、今、上、方、の、葬
儀、を、見、る、ハ、泣、キ、婆、々、と、云、と、の、所、り、古、風、の、遺、ま、り、ハ、扱、此、件、の、儀、を、紀、ハ、天、上、ハ、
て、行、ハ、一、と、傳、た、る、ハ、此、記、と、異、あり、如、斯、て、諸、鳥、ハ、任、一、ハ、い、ろ、あ、り、也、若、ど、と
云、ハ、天、若、日、子、ハ、重、キ、御、詔、を、背、奉、ま、り、バ、後、世、心、を、以、て、推、思、ハ、違、勅、の、そ、の、も、
人、ハ、ハ、あ、り、ず、禽、獸、不、等、一、々、を、鳥、も、不、令、一、不、去、也、不、忠、を、戒、め、る、法、律
既、ハ、神、代、不、定、ま、り、○行、定、按、ハ、お、ま、ふ、と、ハ、動、て、物、ま、り、より、起、た、る、語、ハ、重、之
集、ハ、お、ま、せ、の、き、之、足、高、蜘蛛、の、手、を、と、つ、お、ち、た、ら、が、二、三、日、さ、て、お、ど、く、を、お、ち、

らみの、くも致ちての、おごりま風をいのちふ思ふあつづり、とり、動不
例のナフて、絆を添て、行ふとハ云り○遊也、琴彈き、笛吹き、歌公舞ふを云、
是ハ壺を慰むるよりの、歌舞ふて、上代の情實を推づ、猶葬儀不聞
るもの、古書不見返たる限ハ、抄出て、古葬儀不記せまば、爰ハ略キフ

○阿遲志貴高コ此トキ時阿遲志貴高日子根神子ノカミ自阿
日子根神の志下此トキ時阿遲志貴高日子根神子ノカミ自阿
字ハ、スの古音下以キマシテ到而吊天若日子之喪時自
以て書り、續下音下天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
後紀十九イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
刺志天照國乃イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
三代實録九イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
讚岐國天川宇イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
夫志奈神志イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
志とよめり例イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
之此御名を上イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
ふた阿遲鉏高イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
日子根と作イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆
紀味相高彦イナ天アメ降到天若日子之父亦其妻皆

哭云我子者不死有祁理云取懸手
我君者不死坐祁理云取懸手
而哭悲也其過所以者此二柱
神之容姿甚能相似故是以過也

根不作り、味相此、云阿賦須岐、と訓注をさへ、添、播磨風土記、阿遲須岐、高日古
屋、命、出雲風土記、阿遲須岐、高日子命、此外式、大和國葛上郡、出雲國出雲郡
神賀詞等、阿遲須岐、又阿治須岐、おど書り、おて、説べり、然、不記傳、不見
馴たる、字音、よと、りて、上、阿遲鉏とあるをさへ、アヂシキとよめり、ハ、甚
ト、きむ、おと、あり、此記、神名の中、ハ、古音もて、書り、おと、おほ、きも、是、彼、あ
きを、訓、改めて、名義を、解、おと、思、おと、ハ、學、脈、未、世、不、徧、り、ね、バ、疑、ふ、人、も
阿、む、と、的、證、ま、き、との、ハ、説、葉、た、り、多、り、○容、姿、書、紀、万、葉
等、不、顔、貌、も、容、貌、も、惣、て、カ、ホ、と、訓、り、顔、を、の、と、云、る、ハ、後、より

○愛友ハ、心愛
於是我者愛友故、吊來耳、何吾比穢
曰我者愛友故、吊來耳、何吾比穢
死人云而、拔所御佩之、十掬劍、切
大葉刈不作、死、人、云、而、拔、所、御、佩、之、十、掬、劍、切
り、按、ふ、お、の、十、伏、其、喪、屋、以、足、蹶、離、遣、此、者、在、美
掬、劍、を、如、此、号、濃、國、藍、見、河、之、河、上、喪、山、之、者、也
け、る、を、須、佐、之、男、命、の、遠、呂、智

の御統ミスツく○美須麻流通ハ、再打返ミタマエしたるみて、此通字ハ瓊ニシくと記傳キト云、
非あり、紀キハ逆サカとあまきバ、此記キありも、本ホを逆サカありむを、樂府ガクにて、歌ウタる儘トコロを記
せる由ユ点ツ打ツつツたる末マを、通トウと押オシえ、結ムスぶムスとまきバ、助辞タケコトの爾ニあり、疑ウタガひヒあり
○阿那陀麻波夜アノタマハヤの、阿那陀麻アノタマを、記傳キトみ、赤玉アカタマを誤アヤマるマふハ、ちチとトらラと云ク、書紀シキ
通證トウジみハ、穴玉アナタマありと云ク、今案イマアヒみ、文玉フミタマの轉マタありトづツ、アヤアヤをアアナナミミ轉マタ云クハ、
漢織カンシを、穴織アナシと云ク、如ニ波夜ハヤハ、歎息ソトコトの辞コトあり、記傳キトみ是コトを、映ウツの意イとて、説
々ウツハ、此神コトの容貌ウツの、丘谷ウツ映ウツとありを、助タケむムとめありめど、波延ハハ和ニ多タ良ラ須ス
と、ちチくクでハ、然シカハ聞キ色シキす、是コトハ上ウみ、文フミハ美ミき玉タマを云ク、まマバ、和ニ多タ良ラ須スと、のノとあ
りても、おのづツく、映ウツ渡ワタるルおと聞キやヤハ、古歌コトの妙タマシありトみて、後世ノチノヨの及およびびがと
き所トコロあり、抑上代ノボリノの歌ウタハ、大らオホりリみミて、風韻フウインの備タマをレるルを、後世ノチノヨ心ココロ以もて、めめがと
し、解トクあり、美須麻流通ミスツマフツを、御統ミスツ瓊ニシと云ク、歎息ソトコトの波夜ハヤを、映ウツの轉マタありト、云ク、惣ソウて
古意コトみ叶ウちチもモず、彼翁カノヲハ左サみ右ミみ、理屈リクツを好ヨクめメるル心ココロもモづツの哥カさサつ、生涯シヤウヤ理
屈リクツのノと、よヨおオりリ理リ能ノ思シふフ○美多通ミタツ布多フタ和ニ多タ良ラ須スの、美ミハ加カたタ語ゴハ
て、谷ヤニニ直チるルの、延ノボりリ、紀キハ映ウツ于ニ丘ウツニニ谷ヤ之ノ間マ、とありを、又マタ紀キハ
阿ア波ハ素ス企キ多タ伽カ避ヒ願ノ祿ロクと結ムスびビたるルを、此記キみハ、能ノ迎ムカ微ミ曾ソウ也ニ、と云ク、五言ゴゴンをレ加カた
るルハ、歌ウタふフ隨ツひヒて、加カちチつツる儘トコロを記キたりリと見ミゆ、一首イツの意イハ上ウハ序シヨみ
て、嬰オウる玉タマの如ニく、文フミハ美ミき玉タマ、二谷ニヤを映ウツつツたりリハ、阿遲アチ鉏シ高カウ日子ヒコ根ネ神カミとあり
○夷振ヒ也ニ、紀キハ此歌コトみ並ナりリ、阿磨アマ佐サ簡ケン屢ロ避ヒ奈ナ光クワウ謎メ逆サカ、と云ク、歌ウタを載オりリ、此コト兩ニ首ツ歌ウタ

辭ジ、今號イマナヒ夷曲ヒとあるの混マシたり、然シカ初句ハジメノクみ、夷津ヒ女メとありをとりて、此二首コトを合マシ
せて夷ヒぶフりと号ナん、上代ノボリより樂府ガクにて、歌ウタを其コト一首イツハ、古相聞コト哥カにて、此段コト
今集イマツキ序シヨみ、此段コトの古事コトを記キせり、夷振ヒをえむムすスとと記キし、此哥コトどもを、歌ウタの
やうウみ、あアるルぬ事コトどもありと注ツせり、後人ノチノヒトの所為トコロみハ、あめまメと、然シカハ云ク、七
八百年シチハチノヒトトシを、經ス古注コツあり、夷曲ヒを誤アヤマり、歌ウタの義理タマシをもえ解トクのノぞゾ、そのりリの、
趣ソトを見ミべベ○
伊都イツ之ノ尾羽張ビバシ
神カミ是コトハ、迎具ムカヒ土ツチ
神カミを斬キつツる
大刀オホタカの名ナを、伊イツ
都イツ之ノ尾羽張ビバシと
云ク、名義ナヒハ彼
處コトみ、注ツせり、記
傳キトみ、此コトハ大刀オホタカ
の御靈ミタマを云ク、故ユヘ
り○建御雷タケミカヅ之ノ
應遣オウヂ、且ナ其コト天尾羽張アメノハバシ神カミ者カ、逆サカ塞サ上ウヘ

於コト是コト、天照大御神アマテラスオホミカミ詔ノリ之ノ、亦遣曷神マタウカヒテイゾレノカミ
者カ吉爾思金神エケムカレオモヒカミ及諸神モロクノカミ白之シラカミ、坐天マシタマシケラクマスアメノ
安河河上之ヤスノカハノカハカミ、天石屋名伊都之尾アメノイハヤニナハ
羽張神ハバシカミ、是可遣ベシツカハス、伊都イツ都イツ二ニ若亦非此モシマタナラズコト
神者其神之子建御雷之男神カミソノカミノコタケミカヅノカミ、此コト

男神上不見色
とりの天迦久
神是ハ天上の
地名よき
名あふべ
此道記傳子葦
原中国を言向
小行よとを此
道と云と云り
○天鳥船神ハ
二柱大神の御
子鳥之石楠
船神亦名謂天
鳥船とあり此
神あり然ふ神
賀詞ハ夷鳥命
ハ布都怒志命
乎副天とあり
天安河之水而塞道居故他神不
得行故別遣天迦久神可問故爾
使天迦久神問天尾羽張神之時
答白恐之仕奉然於此道者僕子
建御雷神可遣乃貢進爾天鳥船
神副建御雷神而遣是以此二神
降到出雲國伊那佐之小濱而伊
那佐之小濱
照大御神高木神之命以問使之
以三字拔十掬劍逆刺立于浪穗
踏坐其劍前問其大國主神言天

ハ一ツ傳あり
伊那佐之小濱
式小出雲郡因佐神社風土記抄ハ伊那佐之小濱ハ杵築郷の内假宮村と云處
人と云り紀五十五田狹之小汀ハ作と久轉たらく○浪穗ハ上ふ注り是ハ伊
那佐之小濱の白浪の寄來る處○逆刺ハ記傳ハ柄方を刺立ると云るが如
く○劍前ハ劍鋒あり○踏坐ハ足組居あり扱此件ハ信がてふいぶうる人お
りり書紀ハ萬事漢風不銑て撰と終へとと歸其鋒端とさへ記せを思ふふ
古傳をバ古傳
の儘傳と
○守志波祁流
ハ万葉九此
山乎牛掃神之
云々是ハ食を
くみやく思つ
ど記傳ハ主と
して其処を領
居るを云と云
鳥遊取魚而往御大之前未還來
汝之宇志波祁流此五字葦原中
國者我御子之所知國言依賜故
汝心奈何爾答白之僕者不得白
我子八重言代主神是可白然爲
鳥遊取魚而往御大之前未還來

る、姑、從、づ、〇僕者不得白、記傳ふ、此時大元牟遲神ハ、年老坐て、事代主神ハ、
事を讓、許、つりと云り、然も何、づ、〇鳥遊ハ、鳥狩、一、を云、〇取魚ハ、釣を
目嶋根郡美保神社と云、此地也

〇踏傾其船ハ、
御大之前より、
乘りて歸、路、ハ、
あり、踏傾とハ、
再、乘らざる意
を、示、し、路、を、

故爾遣天鳥船神、徵來八重事代
主神而問、賜之時、語其父大神、言

恐之此國者、立奉天神之御子、即

踏傾其船而、天逆手矣於青柴垣、

打成而隱也、
訓柴云、
布斯

し伊勢物語ハ、天のさうでをうちて、のろひまゝ、新勅撰集み、いりふせむ、天の
さう手を、打ちを、恨、ても猶、ありずも、何、り、ふ、など、併、見る、づ、上、逆、剥
とあるも、駒を生、あ、く、刺、を、云、扱、目を、作、路、ふ、何、で、目を、遊、路、ふ、とて、打、路
一、ま、逆、手、と、ハ、傳、た、り、〇青柴垣の、柴、ハ、訓、注、の、如、く、布、斯、と、云、ぞ、古、言、ふ、和

名抄ハ、蘇、精、柴、於、水、中、魚、得、寒、入、其、裏、云、々、和、名、布、之、都、々、千、載、集、ハ、泉、川、水、の、
こ、の、ふ、一、つ、ん、ふ、岩、間、も、水、る、冬、ハ、氷、ふ、り、惟、馬、樂、階、香、取、ハ、為、奈、乃、布、志、波
良、也、と、ある、も、柴、原、あり、扱、青、柴、ハ、枝、葉、ふ、り、樹、を、伐、と、り、て、身、を、隠、を、り、の、
小屋、を、作、る、を、云、垣、と、ハ、八、重、垣、の、御、歌、の、處、又、須、勢、理、毘、賣、命、の、阿、夜、加、岐、と、よ
と、路、つ、る、條、々、ふ、注、る、如、く、壁、又、戸、帳、や、り、の、と、の、を、云、て、頓、て、家、の、予、ふ、云、ふ、せ
る、を、注、者、垣、籬、ふ、の、こ、思、ひ、よ、ま、り、古、意、を、失、へ、り、〇打、成、ハ、打、鳴、く、其、ハ、逆
手、を、青、柴、垣、の、内、ふ、て、
打、あ、り、一、路、を、云、

〇建御名方神、
記傳ハ、建、御、
も、稱、名、々、名、ハ、
字、の、如、く、方、も、
堅、の、意、の、稱、名、
と、云、り、舊、事、紀、
ハ、娶、高、志、沼、河、
姫、生、一、男、兒、建、
御、名、方、神、と、あ、
り、〇手、末、神、代、

故爾問其大國主神、今汝子、事代

主神、如此、白訖、亦有可、白子乎、於

是、亦、白、之、亦、我、子、有、建、御、名、方、神、

除、此、者、無、也、如、此、白、之、間、其、建、御、
名、方、神、千、引、石、擊、手、末、而、來、言、誰

紀、手端此、云
多那須惠と何
来我國而、忍忍如此物言、然欲爲

力競

取大御酒杯立依指、擧而とある、ふおふ、○思々源氏旗柱、御文ハ志のびく
おと、何、案、此御使ハ、隠さふき天津神の、大御使ハ、あまき、建御名方神、お
のま命の力を頼と、知らぬ状、折て、逐退路をむと、物、路、状、今世の人情、お
も、をさく、異あ、ず、○然も、シカラバと、よはむも、何、と、ふハ、あ、ねど、志加ハ
然の延語あり、まき、猶本語、ふよ、む方、優る、づく、お、風俗、大島、ふ、太礼、加
佐伊、不、知、止、利、曾、佐伊、不、と、ある、も、誰、り、然、云、千鳥、ぞ、然、云、く、此、外、多、う、り、然、ふ、記
傳、ふ、然、も、志、加、の、切、と、云、て、志、加、る、言、を、原、語、く、と、思、一、ろ、く、然、バ、然、ド、モ、と、
云、ぶ、き、處、を、も、シ、カ、レ、バ、あ、ど、よ、め、ま、ど、志、加、も、然、の、延、語、ふ、よ、お、あ、ま、志、加、の、然、
ふ、切、ぶ、き、格、不、何、く、さ、る、ふ、ハ、心、者、ぞ、一、く、万、葉、ふ、ハ、志、加、と、の、云、て、然、と、よ
め、る、ハ、を、は、く、見、西、ま、ま、と、其、も、引、扱、て、去、を、哥、の、常、と、ま、を、了、解、す、べ、し、詞、を
あ、る、べ、し、拍、を、ぬ、ぬ、の、也、古、ふ、よ、る、べ、し、
然、も、云、扱、て、云、ぶ、き、處、を、バ、猶、扱、て、も、よ、る、つ
○立水記傳、
谷川の滝つ瀬
故我先欲取其御手、故令取其御

ふど、側、の、巖
、う、る、水、ふ
ど、の、下、へ、墜、終
ぬ、間、ふ、凍、ま、り
が、劔、を、突、植、た
ら、む、が、如、く、立
て、り、あ、と、あ、る
物、と、云、り、年
治、云、巖、ふ、も、も、軒、平、の、上、ふ、水、を、垂、水、と、云、下、り、立、上、る、を、立、水、と、云、り
○取、成、の、成、ハ、令、成、あり、○劔、又、ハ、手、觸、が、と、く、取、成、を、云、記、傳、ふ、成、を、化、み、て
解、り、ハ、上、ふ、其、船、云、々、於、青、紫、染、打、成、而、と、ある、を、打、化、と、て、打、ハ、逆、手、を、打
と、成、ハ、船、を、垣、み、化、と、や、り、ふ、説、を、助、を、説、り、人、按、ふ、立、水、ハ、寒、矣、つ、る、を
の、み、て、劔、の、如、く、手、も、觸、が、と、ま、状、ふ、取、成、一、の、路、ふ、然、バ、立、水、の、如、く、劔、又
の、如、く、と、如、く、一、意、を、加、て、よ、む、づ、○若、草、ハ、字、の、お、と、御、手、の、弱、き、意
○科、野、ハ、信、濃
因、く、名、義、記、傳
故、追、往、而、迫、到、科、野、國、之、洲、羽、海、
ふ、二、説、を、記、せ
る、中、ふ、冠、辞、考

批而、投離者、即逃去
神之手、乞歸而取者、如取若葦、搯
手者、即取成立水、亦取成劔、及、故
爾懼而退居、爾欲取其建御名方
將殺時、建御名方神、白恐、莫殺我

ふよりて、故坂
あり故の名こ
と云一説ハ、或
人の説ありと
て、此目志那
ろハ、木多うろ
ゆえ倉科、更科、
穂科、仁科、夢科、
まど、云、地名何りと云、諸国名義考ふハ、夫木集あふ、信濃路や、風のまより子
心せよ、去りゆふ花の、自ふ神垣、あどの例を聚めて、息長野あふむと云、又中川
頭丸の説ハ、三鶯、信濃とあまバ、篠野あふむと云、り○洲羽ハ、同目郡名不
て、和名抄、諏方、須波とあふ名義ハ、周防目造、下ふ注せ、續紀養老五年六月
割信濃国、始置諏方国、天平三年廢諏方国、并
信濃国とあり、式、諏方郡、南方、美神社

○且還來ハ、信
濃より出雲ハ、
あり○二神ハ、
フタハシラと
除此地者不行他處亦不違我父
大國主神之命不違八重事代主
神之言此葦原中國者隨天神御
子之命獻

へむづ、記傳
み、フタリとよ
めまど、然よほ
むふも、二人と
書べき此記の
例あるをや次
のニ神も、フタ
ガミと、訓べき
自然の語勢あふ、扱ニ神を、然よむべき例ハ、万葉三小、羽神之貴山とあり、又式
み大和国、葛下郡ニ上神社ニ座とありて、今も山頂ハ、二神を祭り、万葉小葛
城ニ上山とよめる、即是あて、上ハ神の借字あふ、るを、知るべし、○既獻ハ、記傳、
悉、獻意く、りて、万葉十七、み、天下、須波、於保比底、布流、雪、乃とあるを、例ふ引
出たり、○天津
日継ハ、天津日
大御神の御任
の隨意、大御業
を兼、継、一、知、
めまを、云、○登

隨天神御子之命、勿違白訖、故汝
心奈何爾、答白之、僕子等二神、隨
白僕之不違、此葦原中國者、隨命
既獻也

○古事記標注上卷之下

○二十二

唯僕住所者、如天神、御子之、天津
日繼所知之、登陀流、此三字、以天
之御巢而、於底津石根、宮柱布斗

くも何れぬを、支那人の、妖言不欺をまづらふそ、うすく、口をいへば、妻ハ黄
泉国、下不弁、おろし、如く、○多藝志ハ、出雲郡今の神地の、古名あるべし、○天
之御舎ハ、上ノ天之御巢ありて、何れ如く、天上の御殿、雀つる由、如く、
り、御舎を御在所、古語拾遺、瑞殿をよみ、大殿祭祀詞、御殿をよめり、是
ハ、記不、應住天、日隅宮、とある宮、永く御霊の留まり、終
上、所、扱大國主神、此宮不坐て、天津神、住奉る、次不見
○水戸神ハ、伊
那那岐命の御
子不坐せり、
上不見也、○梯
八玉神の、梯ハ
鶴ハ、八と彌、
惣て稱、名く、
膳夫、和名抄、
大膳職、於保加之波、天乃豆加佐、と注せり、食事を執る人を云、委、景行段、七拳
脛、為膳夫とある處、注べし、○獻天御饗ハ、天津神、獻る御饗あり、○禱白ハ、
古判本のゆ、ホギとよむべし、万葉六、大大夫、禱豐御酒、吾醉爾家、里、新猿
樂記、千秋萬歳之、酒、禱とあり、是を記傳、禱とよめり、ハ、此件、の古事を、并

水戸神之孫、梯八玉神、為膳夫、獻
天御饗之時、禱白而、梯八玉神、化
鶴入海底、咋出底之波、通、此二字
作天八十毘良迦、此三字而

築、大神の、御靈、白子と思つる、訓をも替たり、○化鶴ハ、字の如く、姓氏録
鴨、縣主、條、鴨建津之身、命、化大鳥とあり、ふ、お、あ、○波通ハ、植ふて、波通夜須
毘古神、下、注り、○八十毘良迦ハ、神武紀、平倉
此、云、毗、邈、カ、とあり、平、荷、あて、八十、も、數、の、多、を、云、
○海布ハ、和布
荒布等、の、惣、名
あり、柄ハ、記傳
不、莖、を、云、鎌ハ
加理氏、と、訓、
一、と、云、り、○燧
白ハ、火を、燧、出
す、莖、あり、○海
尊、和名抄、石
蕪、古毛、海尊、同
上、と、あ、ま、と、詳、ち、ず、石蕪ハ、石不、生、る、ア、ラ、サ、と、云、る、昔、あ、ま、と、并、不、生、る、べき、
との、あ、ま、と、ず、○燧、并、ハ、火を、採、出、す、べき、具、を、云、○鑽、出、火、和名抄、ふ、と、鑽、比、岐、利
と、注、せ、り、扱、火を、燧、出、す、状、後、世、ハ、檜、木、ふ、鑽、を、採、入、る、む、ら、の、四、を、穿、つ、是
を、燧、白、と、云、又、枇、杷、木、の、六、角、又、八、角、の、物、の、端、を、凹、こ、み、當、て、手、不、力、を、入、ま、て

鎌海布之柄、作燧白、以海尊之柄
作燧杵而、鑽出火云、是我所燧火
者、於高天原者、神産巢日、御祖命
之、登陀流、天之新巢之、凝烟、
州之、八拳、垂摩豆、燒舉、
摩豆、以音

採めバ、指屑ハ火の移るもの、然バ火を採出を、比岐利と云、燧も採も同義
ふ先れバ、錐字を、キリと云、義を知づ、委ハ宮川日記ハ、火を燧る曰も、杵も
圖ハありて、其用法を記せり、○是我所燧云々、是より以下、御祝言ハ、○天
之新巢ハ、新殿を云、上の御巢ハ、併見づ、○凝烟ハ、煤子て、新造の御殿ハ、煤加
ぬるそのを、八拳垂すと云、凶あて、久しきを經べき、御祝言より久愛ハ高
天原、とありて、於高天原、永水高知と、同義ハ見むハ、拙ハ、實ハ高天原あり、新宮
ハ、煤の垂るる
地、下者、於底津石根、燒凝而、拷繩
之、千尋繩、打延爲釣、海人之口大
之、尾翼鱸、訓鱸云、佐和佐和、通、此
ハ、まの木の皮、須受岐、五
以、控、依、騰、而、打、竹、之、登、遠、遠、登
ノ、山、樗、と、あり、遠、遠、通、以、此、七、字、獻、天、之、真、魚、咋、也
ノ、我、古、書、ハ、遠、遠、通、以、此、七、字、獻、天、之、真、魚、咋、也
ノ、穀、ハ、通、も、一、記、せ、り、○為、釣、も、釣、も、る、を、延、た、る、と、記、傳、の、追、書、ハ、大、繩、を、海、中、へ
延、て、一、度、ふ、ま、た、く、の、魚、を、捕、る、予、を、為、と、云、り、拷、繩、と、あり、バ、常、為、了、釣、ハ

ありて、○口大字の如し、記傳ハオホクチ、とよめき、然よむハ、大口と書
べき例あり、○尾翼記傳ハ、小鱸の意と云、り、左右の比礼ハ、○佐和佐和通ハ、粟
ハ、みく、○打竹ハ、記傳ハ、折竹の誤、と云、り、割、た、る、竹、み、て、次、み、う、新、枕、詞、あり、
○登遠々ハ、記傳ハ、多和々と同く、で、挽、む、鰻、を、云、と、云、り、其、を、物、の、挽、む、を、う、り、
と、云、意、ふ、て、數、の、多、き、を、云、る、と、云、り、○天、之、真、魚、咋、ハ、上、ハ、天、御、饗、と、あり、
お、あ、と、是、を、咋、と、云、り、ハ、開、訓、ぬ、語、ハ、あ、ま、と、素、より、食、物、ハ、獻、る、ま、ま、バ、上、代
ハ、然、云、と、む、是、は、大、目、主、神、の、天、神、へ、申、御、祝、言、あり、
美、も、一、き、を、愛、ひ、て、御、使、の、神、達、ハ、天、上、へ、上、り、給、ひ、ぬ、
○太子ハ、天津
日、繼、を、知、食、
ハ、御、子、と、云、義、
あり、○天、通、岐
志、目、通、岐、志、紀
ハ、天、目、饒、石、と
書、ハ、石、ハ、助
辭、ハ、○天、津、日
高、ハ、尊、稱、ハ、
○日、子、番、能、通、

中國之白、故隨言、依賜、降坐、而、知
勝速日、天忍、總耳、命、今、平、訖、葦、原
高木神之命、以、詔、太子、正、勝、吾、勝、
平葦原、中國之狀、爾、天、照、大、御、神、
故、建、御、雷、神、返、參、上、復、奏、言、向、和、
高木神之命、以、詔、太子、正、勝、吾、勝、
平葦原、中國之狀、爾、天、照、大、御、神、
故、建、御、雷、神、返、參、上、復、奏、言、向、和、

々藝命、日子ハ
尊、爾番能、通々
藝ハ、記傳不、總
之、丹鏡、君、み、て、
稻穂、の、赤、熱、め、
る、み、依、ま、る、御
名、あり、と、云、り、
○萬、幡、紀、不、考、志、
幡、千、々、姫、と、あ、
り、幡、ハ、記、傳、不、
機、具、を、云、不、何、
ら、ず、織、た、り、服、
を、云、萬、ハ、師、説、
み、宜、み、て、足、り、
備、ま、り、を、云、と、
云、り、○豊、秋、津、
師、比、賣、命、豊、ハ、
の、お、と、く、あ、る、を、
云、と、云、り、○天、
火、明、命、記、傳、不、
總、赤、熱、ま、る、と、
云、り、御、兄、弟、と、も、

者、爾、其、太、子、正、勝、吾、勝、勝、速、日、天
忍、穗、耳、命、答、白、僕、者、將、降、裝、束、之
間、子、生、出、名、天、通、岐、志、國、通、岐、志
自、通、至、天津、日、高、日、子、番、能、通、通
藝、命、此、子、應、降、也、此、御、子、者、御、合
高、木、神、之、女、萬、幡、豊、秋、津、師、比、賣
命、生、子、天、火、明、命、次、日、子、番、能、通、
通、藝、命、柱、也

の、お、と、く、あ、る、を、云、と、云、り、○天、火、明、命、記、傳、不、總、赤、熱、ま、る、と、云、り、御、兄、弟、と、も、

お、あ、ど、名、義、ウ
○以、可、天、降、記
傳、不、以、字、ハ、讀
べ、う、ず、と、云、
て、ノ、リ、ク、マ、ハ
ク、と、添、よ、り、
按、み、注、者、の、思
ふ、ゆ、い、ふ、よ、
ふ、さ、む、む、畏、き
業、あ、れ、バ、己、ハ
よ、む、づ、き、限、ハ、
本、不、從、ひ、つ、以、
字、ハ、字、鏡、集、類、聚、
記、司、馬、相、如、傳、不、
○八、衢、字、の、如、一、
路、乃、ハ、衢、尔、と、
○伊、牟、迦、布、神、
の、伊、ハ、發、語、ウ

是、以、隨、白、之、科、詔、日、子、番、能、通、通
藝、命、此、豊、葦、原、水、穗、國、者、汝、將、知
國、言、依、賜、故、隨、命、以、可、天、降、爾、日
子、番、能、通、通、藝、命、將、天、降、之、時、居
天、之、八、衢、而、上、光、高、天、原、下、光、葦
原、中、國、之、神、於、是、有

○古事記標注上卷之下
○二十六

とる称して、其起る処ハ、五十鈴川の内外に坐す謂ふ、此大神の度會に坐させ
 る故ハ、外宮儀式帳に、天照坐皇大神云々、大長谷天皇、御夢を諭覺賜天吾高天
 原坐皇、見志真岐賜志處、志都真利坐皇、然吾一所耳坐波、甚苦加以大御饌も、
 安不聞食坐故、丹波国比治、乃真奈井、坐我御饌都神、寺由氣大神、我許欲
 止誨覺奉、雨時天皇驚悟賜皇、即從丹波国、令行幸云々、大長谷天皇と申ハ、
 雄略天皇より、丹波国比治ハ、比沼の誤り、ちづづー〇度相ハ、伊勢国郡名にて、和
 名抄に、度會、和多良比とあり、名義ハ、同国風土記に見るに、とととと、文長りれば畧
 〇大石戸別神の石ハ、堅固の意、戸を門して、別ハ明の轉ちづづー、古語拾遺に、
 太玉命の御子と傳、ちづづー〇櫛石意神、櫛ハ奇意ハ真門あり、亦名の豊ハ稱名に、
 扱此二名を、古語拾遺にハ、二神と傳、式の神祇官、西院に、二柱づづー四面に坐せり
 ちづづー思へば、此記に亦名とあり、混たり傳、ちづづー〇佐那縣、記に伊勢之狹
 長田、と有り、此地ちづづーづー、式に同国多氣郡、佐那神社、二座とあり、記傳に、或説
 不、手カ男神と、**故其天兒屋命者**、中臣連、**布刀玉**
 若佐那賣神と、**命者**、忌部、**天宇受賣命者**、後、**玉**
 を祭ると云、**命者**、忌部、**天宇受賣命者**、後、**玉**
 〇中臣連、記傳、**命者**、忌部、**天宇受賣命者**、後、**玉**
 不、中臣連、記傳、**命者**、忌部、**天宇受賣命者**、後、**玉**
 不、神と君と、**伊**、**斯**、**許**、**理**、**度**、**賣**、**命**、**者**、**鏡**、**之**、**祖**、**連**、**玉**

の、御中を執持、**祖命者**、玉、**等**、**之**、**祖**、**連**
 て、申職くと云、**祖命者**、玉、**等**、**之**、**祖**、**連**
 り、天武十三年、紀に、中臣連、賜姓、曰、朝臣、〇忌部首、名義ハ齋、潔はもりて、事を為
 ず、職を去、と記傳不云、首ハ尸とて、大人の義、天武九年、紀に忌部首、賜姓曰
 連、同十三年、紀に、忌部連、賜姓曰宿禰、〇後女君、名義古語拾遺に、以所顯神名、為
 氏、姓とあり、神名とハ、後田毘古神を申、後女ハ、大嘗會、鎮魂祭に、仕奉る職あり
 ず、延喜式、西宮記、北山抄、政事要畧等、見正と有り、記傳に、後女君ハ、尋常の、姓氏
 の、と聞ゆ、と云、女神あり、子孫の、氏、の、り、む、疑、も、故、思、ふ、心、も、其
 子孫にハ、あらざ、ま、ども、此、職業、を、相、嗣、て、仕、奉、る、女、等、を、後、女、君、と、云、ふ、や、あ
 り、む、と、云、り、此、説、ち、づづー、如、斯、て、後、田、毘、古、神、對、た、る、号、ち、づづー、バ、佐、留、女、と、ハ、
 云、ゆ、ち、づづー、か、も、目、也、と、云、ど、其、ハ、後、田、毘、古、神、と、云、ち、づづー、つ、る、世、と、ち、づづー、て、サ、ル、メ、と、呼、
 ぶ、ち、づづー、ひ、其、を、上、し、め、ぐ、ち、づづー、て、書、る、ち、づづー、む、〇鏡作連、古の連ハ、造の誤り、ちづづー
 一、天武十二年、紀に、鏡作造、賜姓曰連とあり、此氏人書不見、〇五祖連、天武
 十三年、紀に、五祖連、賜姓曰宿禰とあり、書紀以下、三代實錄以上、ハ、此氏人
 見正、五作と云、姓ハ、往々見ゆ、紀に五作上祖、玉屋命とあり、五作、即玉祖
 あり、一、姓氏錄、忌玉作傳に、造作玉壁、以為神幣、故号玉祖連、亦号玉作連、とあ
 り、是、バ、然、不、仁、賢、紀、續、紀、三、代、實、錄、類、聚、因、史、不、涉、り、玉、作、の、氏、人、七、人、見、正、て、其
 中、子、ハ、外、從、五、位、下、に、叙、た、り、二、人、あ、ま、と、惣、て、尸、を、脱、せ、り、玉、作、ハ、未、姓、を、賜、ら

〇古事記標注上卷之下
 〇二十九

ざりしや ○ 故爾詔天津日子番能邇邇藝命
 石位、紀小磐座 而、離天之石位、押分天之八重多
 堅固の稱して、即高御座を云、○多那雲も立、
 摩雲あり ○ 伊那、此二字 雲而、伊都能知和岐、知
 非能知和岐の、伊都ハ、授威ノ、て、上ノ注せし、
 知和岐ハ、紀小以、士摩理蘇理多多斯豆、自宇以下
 道別、道別而、と音、天降坐于竺紫日向之、高千穗
 あり ○ 宇岐士之、久士布流多氣、自久以下
 摩理、紀小浮渚、之、六字、以音
 在をよ、記傳ふも、種々考ゆまど、是と聞ゆる説あり、此ふ於天津浮橋云々、天降
 坐云々、との間に、宇岐士摩理、とあるは、天地の中間ふ、何れ物を云、と聞ゆる、甚
 紛らむ、今按ふ、紀小天降坐して後、浮渚在と傳たり、を正しとす、一、叔宇
 岐士摩理とハ、泥疑の延語にて、泥の滞りたり、貌あり、泥をウキと云るハ、金葉

集小、葦根もふ、水のうへと、我思ひを、うきを我身、何れを、千載集
 ふ、く、袂小根させ、何やめ草、うきハ我身に、何れと云、ざや、是ハ今ド
 ロと云、このを、宇岐と云、り、士摩理の本語ハ、志美、よて、物の疑るを云、陸奥、出羽
 の方言、水、永をシ、三と云、水、蒨、蒨を、シ、三、コ、ンと云、水、豆、腐を、シ、三、ト、ク、フと云、久
 堀川次郎百首、衣手、の、う、す、き、や、春、の、関、あ、む、我、身、ハ、い、と、ど、志、ま、よ、り、つ
 つ、此、外、猶、例、多、し、う、ま、バ、泥、疑、あり、を、此、記、ふ、ハ、仮、名、小、傳、へ、紀、小、ハ、其、義、を、思
 ひ、え、む、して、浮、渚、在、と、譯、たり、○ 蘇、理、多、々、斯、豆、ハ、撫、發、して、あり、撫、と、ハ、雪、又、泥
 の、上、を、乘、行、く、具、あり、史、記、高、本、紀、小、泥、行、乘、撫、と、り、夫、木、集、十、八、ふ、跡、た、ゆ、り、
 何れ、ち、の、山、の、雪、越、ふ、ゆ、り、の、つ、ま、を、引、ど、わ、づ、ら、山、家、集、ふ、た、ゆ、り、つ、
 り、の、ま、や、を、も、つ、だ、あ、く、ふ、つ、も、り、ふ、り、ふ、越、の、志、山、是、ハ、泥、ハ、疑、て、ハ、あ、ま、
 ど、陸、行、も、り、の、難、々、れ、を、撫、小、乘、り、て、發、し、ゆ、り、○ 高、千、穗、之、久、士、布、流、多、氣、ハ、
 日向風土記、白杵郡内、知鋪郷、天津彦々、大瓊々杵尊云々、天降於日向之、高千
 穗、二上之峯云々、和名抄、同、国、白、杵、郡、智、保、郷、何、れ、此、郷、ハ、豊、後、国、直、入、郡、肥、後
 国、阿、蘇、郡、ふ、坂、た、る、廣、遠、の、地、ふ、て、近、国、の、人、ハ、タ、カ、チ、フ、と、訛、云、り、和、名、抄、ふ、肥
 後、国、阿、蘇、郡、知、保、郷、何、れ、是、白、杵、郡、不、接、て、廣、く、智、保、と、云、り、分、と、る、く、扱、此、高
 千、穗、ふ、御、天、降、の、趾、今、も、存、り、二、上、山、と、云、も、何、れ、紀、小、襲、之、高、千、穗、と、も、襲、之、高
 千、穗、摠、日、二、上、峯、と、も、傳、た、る、襲、ハ、大、隅、国、贈、啖、郡、ふ、て、日、向、国、諸、縣、郡、ふ、境、た、る
 霧、嶋、山、ふ、二、頂、あり、て、二、上、山、と、云、此、山、ふ、天、降、坐、し、と、傳、云、り、此、二、所、何、れ、實、趾

あむ、決、た、と、久士布流多氣也、紀小徳觸之峯、小作事入即奇ぶ。是を
久士布流と、士を濁り、布を清てよめらば、清濁違へるやうなれど、日影るを、比
賀氣流と云、夜降を、夜具多知と云、おあどき一格、扱上小、詔天津日子、番能
遊々藝命而とあるを、記傳小、詔字と、而、字ハあくて、宜きありと云て、此二字を
除きて、よとより、其も皇祖の降し降し不、御自降り降し趣、説ふさむ
心志、ひふれハあり、年治按ふ、う、新文字の、有もふまきも、皆阿礼、口より讀
出つる儘を、安曆主の、書、ま、ち、ま、古傳ふめまき、本の、ふ、よむべき外
一、假令次第のおだや、あ、ぬ、處、何れとも、己が答ふハあり、ざるをや、惣て記
傳ふハ、此文字ハ、あくて、宜し、爰ふハ、文字の、何れ、あどと云て、私よよ
増し、或ハよと減し、あどま、多、う、也、是、字、旁、訓、ハ、点、が、と、く、あり、ふたり
其ハ、己が物、ま、る、業、と、ハ、及、覆
ふるを、見む人、よ、く、定、て、よ

○天忍日命、宇
の如く、稱名、
古語拾遺、高
皇産靈神之、御
子と、何、
津久米命、姓氏

故爾、天忍日命、天津久米命、二人、
取負天之石鞞、取佩頭椎之大刀、
取持天之波士弓、手挾天之真鹿

録、高御魂命
の、未と見正と
久諸国、久米
の、地名の多
る、ハ、此氏人
の住、地、也

兒矢、立御前而、仕奉、故其天忍日
命、此者、大伴天津久米命、此者、久
米直、等

づ、紀小、大伴、連、遠祖、天、忍日命、帥、來、目部、遠祖、天、穗津、大來、貝とありて、命とも
あきハ、記傳小、其子孫、ふ、至り、衰、たる、時、の、趣、を、以て、記、たりと見也と云り○
石鞞の石ハ、堅固の稱、ふて、鞞も、次の波士弓も、上、注、り○頭椎之、大刀、紀小頭
椎を、箇、輔、豆、智と、注、せ、ま、ど、神、武、段、の、歌、ふ、より、て、ク、ブ、ツ、チと、ハ、よ、め、り、纂、疏、小
頭、捷、者、劔、首、如、捷、也とあり○真鹿、兒、矢、ハ、上、小、麻、迦、古、弓と、何、る、處、小、注、へ、り○
大伴、連、万、葉、七、小、鞞、懸、流、伴、雄、廣、伎、大、伴、尔、云、々、記、傳、小、此、氏、の、伴、の、多、く、廣、き、由
ろと云り、天武十三年、紀小、大伴、連、賜、姓、曰、宿、稱、とあり、舊、訓、小、此、大、伴、を、ト、モ、と
よめ、る、ハ、淳、和、天、皇、の、御、名、小、觸、ま、く、○久米直の久米ハ、天津久米命て、小、御
名、より、出、たり、名、義

○韓國、式、大
隅、國、贈、噉、郡、韓

於、是、詔、之、此、地、者、向、韓、國、真、來、通

因宇豆峯神社
 行、此地あり
 記傳不空虛國
 の義と云、久不
 毛の地ありべ
 一〇笠沙之御
 前、紀不吾田長
 屋、笠狹之磯と
 あり、吾田ハ薩摩國の郡名ふまば、笠沙ハ其邊の小名ありべ一〇真來ハ魁不
 て、都とナベき地を覓め終、久〇朝日之直刺ハ、東方の、打開きたる地あり、是
 より、吉地と云、すべハ、詔、詞、久〇夕日之日照也、西方の晴て、障なき地
 を云、〇此地者の、者、字、延、佳、本、不、甚、不、作、も、ハ、マ、ろ、一、以下、上、小、注、リ
 〇所顯申之の、
 所顯ハ、後田毘
 古神の、御名を
 あり、申之ハ、其
 由を、皇孫命ふ
 奏、一、く、送奉ハ、
 笮沙之御前而朝日之直刺國、夕
 日之日照國也、故此地者、吉地詔
 而、於底津石根宮柱、布斗斯理、於
 高天原水椽多迦斯理而坐也

後田毘古神を
 伊勢ふあり、叔
 此所、送奉ま
 といむ、又後田
 毘古神とよく
 して、大神と一
 も、宣、終、ひ、一、を、思、し、不、尋、常、の、神、不、ハ、坐、さ、で、甚、尊、ま、列、不、ぞ、坐、々、と、む、〇負仕奉
 の負ハ、他名を、己、名、不、負、持、を、云、仕奉ハ、朝廷ふあり、〇後女君の事ハ、上、小、注、リ
 〇阿邪訶ハ、伊
 勢國、壹志郡の
 地名あり、次、不
 注、〇為、澳、ハ、谷
 川、氏、ダ、簀、魚、捕
 と云、り、〇比、良、音
 夫、貝、詳、ふ、り、ず、
 本草、貝、子、の、集
 解、不、蛇、と、記、せ、
 貝、を、訓、注、ふ、
 〇古事記標注上卷之下
 〇三十二

故、爾、詔、天、宇、受、賣、命、此、立、御、前、所
 仕、奉、後、田、毘、古、大、神、者、專、所、顯、申
 之、汝、送、奉、亦、其、神、御、名、者、汝、負、仕
 奉、是、以、後、女、君、等、負、其、後、田、毘、古
 之、男、神、名、而、女、呼、後、女、君、之、事、是
 也、
 故、其、後、田、毘、古、神、坐、阿、邪、訶、
 地、時、為、漁、而、於、比、良、夫、貝、
 其、手、見、咋、合、而、沈、溺、海、鹽、故、其
 居、底、之、時、名、謂、底、度、久、御、魂、
 其、海、水、之、都、夫、多、都、時、名、謂、
 〇三十二

ヒラガヒとあ
まど、是ふこり
らじ○底度久
ハ、底著ふて底
ふ沈著を云、叔
度、字も、古音
音以て書り、下
り○都夫多都時、
川ふ臨して、志
あれバ、此ハ音
都布失鳥とあ
消たふ、時を云
御魂を齋、祀
り○還到ハ、宇
受責命、志摩
ふ到るを云、
鮪廣物、鮪ハ和

都夫多都御魂、
自都下四其阿和
佐久時名、謂阿和佐久御魂、
至久阿
追聚鮪廣物、鮪狹物以、問言汝者、
天神御子、仕奉耶、之時、諸魚皆仕
於、是、送、後、田、毘、古、神、而、還、到、乃、悉
命、謂、海、鼠、云、此、口、乎、不、答、之、口、而、
以、紐、小、刀、拆、其、口、故、於、今、海、鼠、口、
拆、也、是、以、御、世、嶋、之、速、贅、獻、之、時、
給、後、女、君、等、也、

名抄ふ魚、背、上、
鬣也、和名波太
俗云比礼とあ
れど、左右小
る、比礼を云、
事、上、注、り、廣
狭ハ、魚の大小
を云、○仕奉耶
ハ、記傳ふ、御
み、ふり、あむや
否を問、と云り
云、○紐小刀ハ、
片刃の轉ふ、
神ふも、人ふも、
久夫木集廿七
語のり、を以て
等、是ハ、中古
う、る、例、有、

○古事記標注上卷之下

○三十三

奉白之中、海鼠不白、爾天宇受賣
命、謂海鼠云、此口乎、不答之口而、
以紐小刀、拆其口、故於今、海鼠口
拆也、是以御世嶋之速贅獻之時、
給後女君等也、
於是、天津日高日子、番能邇邇藝

む○遇麗美人
 を記傳スヲト
 能命於笠沙御前遇麗美人爾問
 誰女荅白之大山津見神之女名
 神阿多都比賣以神名亦名謂木
 花之佐久夜毘賣以五字又問有
 汝之兄弟乎荅白我姊石長比賣
 在也爾詔吾欲目合汝奈何荅白
 僕不得白僕父大山津見神將白
 故乞遣其父大山津見神之時大
 歡喜而副其姊石長比賣令持百

置りハ、奇珠
 々れど例あり
 取机代之物奉出

式ニ大和国城下郡朝霧黄幡比賣神社河内国河内郡石切姫箭命神社伊豆目
 田方郡白波之弥奈阿和命神社鮑玉白珠比咩命神社出雲風土記ニ八尋鋒長
 依日子命赤衾伊農意保須美比古佐和氣能命三代實録ニ薦枕高御産柙日
 神神代紀ニ真髮觸奇稻田媛まどりの例ニ木花とハ何木もて咲てハ係た
 る枕詞まきバ、妨まきを世の注者此神名を櫻とて扱木花とどみあまは是
 非を論えず櫻もあざ附くるり古今集の序あり咲や古の花ハ梅くとおほ
 べきを是をも櫻とて万葉八み此花とりのをさへ記傳ニハ此神名の旁證と
 して櫻も一て引出たるハ片くまの木の花ニキノハナとよほまきハ古言
 の例ニ叶えざれど姑舊訓ニ従ふ備前国内神名帳ニ木葉佐久耶比呼明神と
 云りり佐久夜ハ櫻の古名ありづー○兄弟ハ腹属ありづー親族家族朋輩の
 ガラもあざ○石長比賣字の如く稱名く○目合ハ契るるよて須勢理毘賣
 の段ニ注るが如く○百取机代之物ハ百津人之机の轉ありづー今惣膳と云
 るもの、甚廣く百人の食物も居るりの机と祭也代も記傳ニ崇神紀ニ
 物實とあり實あて何まき机居る種々の物ありと云り四時祭式鎮魂祭
 條ニ供八代物同時參縫殿寮とあり代もあざーづー
 ○奉出もタテマツルと云る意にて例ハ記傳ニ詳あり

日本紀竟宴歌ハ、須如良とのをも申奉れ、バ、此命字を如く
 ○私不可産、ワ
 タクシテ、ハ、古書不見色
 古、今、の、長、歌
 夫、己、を、く、の、
 老、の、數、を、へ、と、
 あ、は、是、去、の、語、
 の、書、不、見、色、を、
 る、始、ハ、ハ、
 々、然、れ、ど、も、易、
 び、き、詞、を、思、ひ、
 出、ね、バ、姑、舊、訓、
 不、從、ふ、○一、宿、
 哉、姓、の、一、宿、ハ、
 一、度、御、路、を、
 云、雄、畧、紀、云、天、

故、後、木、花、之、佐、久、夜、毘、賣、參、出、白、
 妾、妊、身、今、臨、産、時、是、天、神、之、御、子、
 私、不、可、産、故、請、爾、詔、佐、久、夜、毘、賣、
 一、宿、哉、妊、是、非、我、子、必、國、神、之、子、
 爾、答、白、吾、妊、之、子、若、國、神、之、子、者、
 産、不、幸、若、天、神、之、御、子、者、幸、即、作、
 無、戸、八、尋、殿、入、其、殿、内、以、土、塗、塞、
 而、方、産、時、以、火、著、其、殿、而、産、也、

皇、與、一、夜、而、眠、と、も、有、り、○無、戸、八、尋、殿、の、無、戸、を、記、傳、不、土、以、て、塗、塞、き、た、る、上、
 を、云、と、云、也、八、尋、殿、ハ、上、不、出、た、り、紀、云、ハ、無、戸、室、と、有、り、○殿、内、と、国、中、を、ク、又、
 千、と、訓、る、例、不、
 從、ふ、○火、照、命、
 字、の、如、し、紀、不、
 火、闌、降、命、不、作、
 其、り、○隼、人、ハ、
 猛、捷、事、也、
 鷹、の、隼、ハ、似、た、
 る、由、を、又、借、た、
 る、名、く、是、ハ、大、
 隅、薩、摩、の、目、人、
 ハ、上、代、より、猛、き、也、然、負、云、久、後、ハ、お、の、づ、く、地、名、と、も、有、り、て、万、葉、六、ハ、隼、
 人、乃、湍、門、と、も、有、り、如、し、○阿、多、ハ、薩、摩、国、の、郡、名、也、て、姓、氏、録、山、城、国、神、別、不、
 阿、多、隼、人、富、乃、須、佐、利、乃、命、之、後、也、と、有、り、○火、須、勢、理、命、紀、云、火、進、命、不、作、ま、
 不、て、義、を、知、べ、し、○火、遠、理、命、紀、云、火、折、命、不、作、ま、り、火、氣、の、弱、き、意、有、り、○天、
 津、日、高、ハ、父、命、の、御、名、を、負、経、つ、り、○日、子、穗、々、手、見、命、紀、云、彦、火、火、出、見、尊、不、作、
 ま、り、記、傳、不、是、ハ、稱、た、る、更、名、な、ま、バ、穗、々、ハ、稻、穂、不、て、手、ハ、根、不、通、也、見、ハ、耳、と、

命、此、者、隼、人、阿、次、生子、名、火、須、勢、
 理、命、須、勢、理、三、次、生子、御、名、火、遠、
 理、命、亦、名、天、津、日、高、日、子、穗、穗、手、
 見、命、柱、三、

○古事記標注上卷之下
 ○三十六

同く、並美祿ありと云り、按ふ徳
々々大々ふて、大々の畧ありべし

○海佐知昆古、故火照命者、為海佐知昆古、
紀子海幸子作、音下、而取、廣物、鱒、狹物、火遠理、

を佐都由美矢、命者、為山佐知昆古、而取、毛麁物、

佐都雄とよめ、命者、為山佐知昆古、而取、毛麁物、

るも、海山の物、毛柔物、爾火遠理命、謂其兄火照

る由、各相易、佐知欲用、三度雖乞、不

○毛麁物、毛柔、許、然、遂、纔、得、相、易、

物ハ、式の祝詞、ふと、ど、ふ、り、と、ふ、見、や、も、夢、あ、る、バ、わ、ま、さ、る、予、も、何、の、ゆ、い、と、の、を、○佐知ハ、

釣針と、弓矢とを云、其ハ、幸を得るといふ、然云、り

○都不得の、都、爾火遠理命、以海佐知、釣魚、都、不

得、一魚、亦其鉤、失海、於是其兄、火

照命、乞其鉤、曰、山佐知母、己之、佐

知、佐知、海佐知、母、己之、佐知、佐知

今各、謂返、佐知之、時、佐知、其弟、

火遠理命、答曰、汝鉤者、釣魚、不得

一魚、遂失海、然其兄、強乞、微、故其

弟、破御佩之、十拳、劔、作五百、鉤、雖

償不取、亦作一千、鉤、雖償不受、云

○古事記標注上卷之下

○三十七

聞太戸止申加訓香木云

此命の別名あるを次天津日高之御子、虚空津日高とあり、小なりて天津とハ、天皇を申す、虚空津とハ、天と地との間をまは皇太子を申すと云、記傳の説ハ、甚々言痛く、考あり、天津日高とハ、通々藝命の、大神名くと聞也。○无間勝間、紀無目籠、又無目堅間、小作り、堅間、是今竹籠也、と注せり、此勝間を記傳ハ、カツマとよめり、按ハ勝間モ、カツマと訓べられど、堅間モカツマとハ、よしがとされバ、勝間とよむ外あり、是ハ籠の堅く、編きたるを云、云、あるべし、仙覺抄ハ、引々阿波風土記ハ、搦笥を勝間と云り、然ハ記傳ハ、勝字を此記ハ、カタとよめたり、例あり、且諸国ハ、勝間と云、地名もあまハ、堅津間の約たること云り、年治云、此ハ勝間とあり、カカタとよめり、例あり、惣て二所以上、おあト、予のまきを、例ありと云、バ、記中無例の例、舉て盡し、且地名ハ、然名ありとて、此籠ハ、由まきそのハ、證ハ、用ガと、又堅津間の約と云、ハ、殊ハ、うひく、論ハ、たうす、○小船記傳ハ、何物ハ、水を行、とのを、船と云、と云り、○乗其道ハ、砂を高く寄、た、海中の渚あり、づ、其渚ハ、上りて、行、終、ふ由名、乗とハ、云、○魚鱗字の如、屋上の造、重りたる、状あり、○綿津見神之宮、記傳ハ、海底ハ、存、と云り、其ハ、然、何、づ、とハ、思、ハ、その、から、熟考、ある、ハ、海神、宮ハ、琉球国あり、づ、彼国の風俗を聞く、古來神を尊め、事、我國の及、所

みあ、ず、間々古風と、お、一、きも、数多遺まりと云り、其目王ハ、神胤を繼ぎ、天孫氏と稱來、一、を、保元年中、源為朝始て渡り、嶋民を服、其子、尊教、勇力、父ハ、過ぎ、遂ハ、天孫氏を滅、舜天王と稱、一、中山世譜ハ、見、臣たり、神胤の絶、ハ、實ハ、哀むべき業あり、此海宮行幸の事を、紀ハ、沈之干海とも、海底、自有、可、怜、小、江、あど、記せり、是ハ、海底あり、むとも、然、云、て、妨、あり、漢籍ハ、入海と云、と、去むく、見、あ、お、ト、事、あり、扱、真の海底ハ、ち、ざ、と、お、一、きハ、下、小、送奉、若、渡海中時、無令、惶、畏、とあり、海上を渡、行く、時、と聞也、又、御歌ハ、鴨、著、嶋とあり、は、い、よ、海島と聞、て、疑、ハ、あり、琉球の本名ハ、沖繩、国と云り、天孫氏と云、一、も、綿津見神の、御末、子、也、是、ハ、思、ひ、お、ろ、く、儘、を、注、後、人、考、べ、一、

故隨教小行備如其言即登其香
木以坐爾海神之女豐玉毘賣之
從婢持玉器將酌水之時於井有
光仰見者有麗壯夫訓壯夫云遠

○古事記標注上卷之下 ○三十九

名不書きたるを
見ず万葉九同
十二小とあまの
ねバ姑舊訓不従ふ
因まろ御名あり玉とハ寶珠を有修つるふよまろ
て正身を隠まくと云記傳み前子等たちり畧くと云まろ女子等の轉あろべ
一〇玉器ハ玉益みて武烈紀み托摩蕃比爾淤逗佐倍母理とあり玉器ハ水さ
つ盛りあり大膳式ハ片燒とも何り飲む水を古言ハモヒと云由る其を入る器
の名とふれ
〇唾入ハ玉と
共ハ吐入後ハ
あり是ハ玉の
器不著て離ま
ざら一めむと
めく〇美智紀
ハ海鹽不作ま
り記傳ハあろ
海鹽の子を長

以爲甚異奇
爾火遠理命見其婢乞欲得水婢
乃酌水入玉器貢進爾不飲水解
御頸之璵含口唾入其玉器於是
其璵著器婢不得離璵故璵任著
以進豐玉毘賣命爾見其璵問婢

本草の説ふて
く云ハ大和
詞をうへて記
セリ然まど美
智と云ハ海
類みて是を伊
豫みてアジカ
と云能登みて
トドと云り形
水類のおとく
大々餘小玉ハ
全身倉黒色ハ
一て毛柔ハ禰
ふよ一と本草
啓蒙ハ云り夫
木集三十六ハ
我戀ハミチの
ぬあがれさめ

曰若人有門外哉答曰有人坐我
井上香木之上甚麗壯夫也益我
王而甚貴故其人乞水故奉水者
不飲水唾入此璵是不得離故任
入將來而獻爾豐玉毘賣命思奇
出見乃見感目合而白其父曰吾
門有麗人爾海神自出見云此人
者天津日高之御子虚空津日高
矣即於内率入而美智皮之疊敷

○古事記標注上卷之下

○四十

やらぬ、夢あり
あがら、絶や果
なむ ○ 疊とハ
敷物ふて、古の
を畧し、重ねし
ゆゑ、然名づく
○ 思其初事ハ、
木、土を恋ひ、お
もゆをを云 ○
大一歎ハ、訓ガ
とし、記傳ハハ
爲大一歎と、逆
みよめるハ心
よか、ず、然ハ
云、ヒトタビナ
ゲキ、タマヒキ
ヤ、ヒトナゲ
キ、シタマヒキ
八重亦絶疊、八重敷其上、坐其上
而、具百取机代物、爲御饗、即令婚
其女、豊玉毘賣、故至三年、住其國
於是、火遠理命、思其初事、而大一
歎、故豊玉毘賣命、聞其歎、以、白其
父言、三年雖住、恒無歎、今夜爲大
一歎、若有何由、故其父大神、問其
聳夫曰、今旦聞我女之語、云三年
雖坐、恒無歎、今夜爲大歎、若有由

と、上ゆむも、い
らダあれバ、次
ふ爲大歎とあ
るみ、效ひ、姪、縣
居翁の、訓み、從ひ、つ ○ 今夜ハ、昨夜を云、り ○ 聳夫の、聳ハ、睡子の、義ふ
り、催馬樂我家、み、於、保支美支、万世、无已、尔世、无夫、ハ、上ふも、下ふも、見ユ
○ 海之、大小魚
の、五字を、記傳
み、意を、以て、書
り、り、と、して、ハ
タノ、ヒロモノ、
ハタノ、サモノ、
と、よめり、大小
魚を、然も、よむ
と、よめり、大小
魚を、然も、よむ
べ、たれど、海之と、云をも、其、よよ、加むハ、如何、あまき、バ、ハ、從ひ、ダ、と、○ 赤海
鯽魚、和名抄、小、海鯽魚を、知沼と、注せり、是ハ、鯽魚、み、て、早く、出雲、風土、記、ふ、見
色、と、まじ、と、和泉、国、茅渚、海、より、産す、を、上品、と、ま、す、ゆゑ、此、名、あり、仲、哀、紀、ふ、海、鯽
魚、多、聚、船、傍、と、も、あり、此、不、赤、字、を、加、た、ま、バ、赤、鯽、あり、予、志、タ、○ 於、喉、鯽、の、喉
○ 古事記標注上卷之下
○ 四十一

哉、亦到此間之由、奈何、爾語其大
神、備如其兄、罰失鉤之狀
是以、海神悉、召集海之大小魚、問
曰、若有取此鉤魚乎、故諸魚白之、
頃者、赤海鯽魚、於喉、鯽物、不得食、
愁言、故必是取

ハ、吞門之、畧てノドとも云り、鯨和名抄、魚刺在喉也、乃木とあり、又芒、木穂也、乃木とも有り、今俗不刺とも、トゲとも云フ

○清洗和名抄、於、是探赤海鯽魚之喉者、有鈎即

取出而、清洗奉火遠理命之時、其

綿津見大神、誨曰之、以此鈎、給其

兄時、言狀者、此鈎者、於煩鈎、須須

鈎、貧鈎、宇流鈎、云而、於後手、賜煩

六字、以音

志女、官とあり、故、清洗と、よほしく思へど、姑、記傳の訓不從ふ○於煩鈎の、於煩

ハ、曉の意、明らあり、ざる義あり、紀不大鈎、不作ま、ハ、記傳不借字と云り

○須々鈎、紀不踉跄鈎を、須々能美膩と、よめ、ハ、行くまとの、急く進むと、語

を、借たるの、よみて、字義ハ、關ら、須々、ハ、困苦の意、よて、源氏若菜、よ

は、物うく、ま、ろ、れ、伊勢物語、心細く、ま、ろ、ある、めを、る、みと、お

ま、徒然等の、諸字を、ススロと、よ、中、此、須々、ハ、卒の意、あり、ハ、

貧鈎、此記の舊訓、及紀、不マヂチ、と、あ、ま、と、貧字を、マヂと、よ、免、る、例、あり、ハ、改

め、つ、○宇流鈎、紀不疑、疑鈎を、于、樓、該、賦、と、注、せ、り、記傳、不、景、行、卷、不、失、意、と、ある

も、同、言、あり、む、と、云、り、以上、訓、ひ、の、よ、め、不、教、後、れ、ハ、不、明、と、云、辛、苦、と、云、貧、と

云、失、意、と、云、り、ハ、魚、鈎、の、針、の、古、言、よ、て、字、鏡、不、知、伊、と、注

せ、り、○後、手、字、の、ま、と、く、上、代、詛、ひ、の、業、ハ、如、此、せ、り、あり、

○攻、戰、次、不、地、來、又、將、攻、之、時、然、而、其、兄、作、高、田、者、汝、命、營、下、田、

其、兄、作、下、田、者、汝、命、營、高、田、為、然、者、吾、掌、水、故、三、年、之、間、必、其、兄、貧、

窮、若、恨、怨、其、為、然、之、事、而、攻、戰、者、出、鹽、盈、珠、而、溺、若、其、愁、請、者、出、鹽、

○古事記標注上卷之下

○四十二

手足シテ脳ノウめあり
と云り○和通ワツ乾珠ケンジュ而活ニシテ如此コト令マシテ惚苦サツケ云ニ授シテ鹽盈シホ
魚イサ記傳キデン魚イサ字ジ漢文カンブン不效フコウひて
加カたりと云り
○覆奏フクソウの覆フクハ、
獲ウケおあど○
尋長ジツナガサ記傳キデンふヒ
口クチノナガサと
もよむべけれ
ど、云イハまど、言コト
のさゆサユ穂ホあ
ぞ、是コトをヒロサ、
ナガサと訓ナま
むハ、重言ジュゴンのやう聞キこまど、長ナガ久キウあどの例レイふて、古コの雅言ヤクゴンあり、扱アツ大海タイカイハ、珠ジュふ
大オホあるも躬ミも何ナニもむを、繞ニ一尋イツジンをうりみりて、一日イツニチふ送オウ奉ホウと云イハるを、記傳キデンふ、纂疏サンシを
引ヒキて、短者タンシャ身輕ミカサ、而シテ行ユク、駛シ、長者チュウシャ身重ミオモト、而シテ行ユク、遲シと云イハるハ、心得ココロエず、魚イサふはま、まふまれば、同
品ヒンの中ナカ、大オホあるハ、速スく小コハ、遅シき、今日コンニチふ見ミても、いちぢるきを、此コノハ一尋イツジン躬ミ

乾珠ケンジュ而活ニシテ如此コト令マシテ惚苦サツケ云ニ授シテ鹽盈シホ
珠ジュ、鹽シホ乾珠ケンジュ、并ニ兩箇リウカン、即スナハチ悉コトクニ、召コトクニ集アツクテ和通ワツ
魚イサ、問トヒタマヒキ曰イハ、今天コンニチ津日高ツツヒダカ之ノ御子ミコ、虛空ソコ
津日高ツツヒダカ為ムト將出イデマサウハツクニ、幸マシ上國ウヘノクニ、誰者ナニノカニ幾日イツクカニ
送奉オクリマツリ而覆奏カヘリテフクソウ、故各隨オノオノニ己身オノミ之尋長ヒロサナガサ
限日カギリヒラ而白マラス之中ナカニ、一尋イツジン和通ワツ、白マラス僕者ハハ
一日イツニチ、送即還來オクリテスナチカヘリキナムト

の大躬タイコンふ越ワて、行ユク去クとの勝マシ是
たるを、奇見キケンも、語傳ゴデンなる物モノ也
○渡海中時ワタナカノトキ云イハる、此コノ上ウヘも
引ヒキり、如コトく、海ウミ
底ソコより、游ユク上ウヘる
とハ聞キこえず、心ココロ
を著ツケて見ミるべ
し、上ウヘ小出幸コトケ上ウヘ
具ツクと、あるも泥ドロ
も、海底ウチノソコより
ハ、上ウヘみも在アる目メ
くと云イハるハ、非ヒ
あり、是コトハ尊ツギと
て、上國ウヘノクニとも、上津國ウヘノツクニとも云イハる、鎮チン火カ祭サヒ詞シ、吾オノ名ナ妹イモ能ノ命ミコト波ハ、上津國ウヘノツクニ乎ニ所シヨ知シメ食シ倍バ志シ
吾オノ波ハ下津國ウチノツクニ乎ニ所シヨ知シメ年トシとあり、ハ、出雲イツクノ國クニ嶋根郡シマネノあり、夜見嶋ヨミシマを、下津國ウチノツクニと云イハる、准
て知チべし、○組クミ小刀コナガタハ、ト注ツケり、記傳キデンふ、頸クビふ著ツケて返カヘり、功イサメを賣ウての、賜物ミツモノ
くと云イハる、○佐比持神サヒモチノカミ、神武紀カムヤマトノヒコノフミ、稻飯命イナヒメノミコト、拔劍ヒキタテ入イリ海ウミ、化カ為ニ劍ツルギ持モチ神カミ、推古紀オホノミカドノフミ、多智奈

故爾コノレ告ツケ其一尋イツジン和通ワツ、然者シカラバ、汝ナレ送奉オクリマツリ
若渡海中時モシワタルワタナカノトキニ、無令惶畏ナセハチセマツリソノ、即載スナハチセマツリソノ其和
通之頸クビニ、送出オクリダシマツリキ、故如期ゴトノキリシ、一日之内イツニチノ、送
奉也マツリキ、其和通將返之時イトスルカヘリナトキニ、解所佩之トカシテセルミハカ
紐小刀ヒモガタナヲツケ、著其頸クビニ而返カヘリ、故其一尋和
通者ヒモガタナヲツケクビニラカシモヒキカレソノヒトヒロ、於今謂佐比持神也イマイフナルサヒモチノカミトゾ

此文字不物レアレモイマモテモトツヨラスウマムトモキナニタマヒソトアラ
で、よむむハ妾今、以本身為産、願勿見妾

思ふ儘ふよむ得べけれど、然てハ古傳不背々々、急字ハ俄不せゆり、終人意不
置り、あまをセマルとよむづ、紀子も産期方急とあり、史記宋微子世家、
急常寒苦云々、あま急と訓めり例へ○日子記傳、次比古遷とあま、遷字
脱たりくと云、まど、諸本日子とのまあまハ、字の儘ふ、日子とよみて、宜き處
り、景行段、多迦比迦流、比能美古と見え、万葉不も、あま見返、日之御子と
申すあり○本国之形ハ、次不見也○為産をウマムトス、とよみてハ、漢籍讀の

やう、聞ゆめまど、古言の格あり、神武段、許能波佐夜藝奴加是布加年登
須、とあるふあまト、木葉騷而風吹むとす、○願ハ、子ガヒの原語あり

○竊伺、記傳不
加伎麻美と訓
ハ中昔の俗語
ハ、カイマミと

於是思奇其言、竊伺其方産者、化

八尋和邇而匍匐委蛇、即見驚畏

云、予、物語書、あまをく見返たり、中、更科日記、ハ、立ぎ、あまをむ人の云々、
大和物語、あまをむめバ、枕冊子、あまをむめバ、とさへ有りて、カキマミと云、

たる例さへ、あまれば、古言、あまをむめバ、故、姑、舊訓、不従ふ、伺ハ古言、あまを、出雲風土
記、大、大神、伺、求、給、故、云、宇賀とあり○八尋和邇の尋、下、不之と、助辞を添て、よむ
べき語の勢あり、此和邇を、紀、不化、為龍と作り、次、不匍匐委蛇と、あまを思ふ、
紀、傳、ぞ、正、一、有り、上、不、本国之形、あまも、以、本身、為、産、あま、立、返り、考、ふ
る、不、綿津見神ハ、御靈ハ、龍蛇、不坐、上、あまも、注、る、如、一、委、ハ、野、推、名、義、考
ふ、弁、お、り、○委蛇、紀、不、遠、蛇、不、作り、文、選、江、賦、不、蛭、輪、を、よ、め、ハ、モ、コ、ヨ、フ、と、ハ、
龍蛇の、あま、わ、た、る、教、あり、和、名、抄、ふ、
蠢虫、動、搖、狼、也、無、久、女、久、と、有、ル、も、同、シ

爾豐玉毘賣命、知其伺見之事、以

為心耻、乃生置其御子而、白妾恒

通海道、欲往來、然伺見吾形、是甚

怍之、即塞海坂而、返入、是以、名其

所産之御子、謂天津日高日子、波

○古事記標注上卷之下

○四十五

○海道、万葉九
み、海津路、乃名
木名六時毛、と

出たり、詞あり
外、限、羨、愁、慨、嬉
善、心、ふ、心、こ、此

○心耻、う、哀
ら安、ふ、お、ど、云

う、ハ、心、こ、此
善、心、ふ、心、こ、此

あは是正字
○海坂ハ海坂
限建、鵜葺草葺不合命、那藝波限訓云
ふて、海上の遠葺草云
さを云、○是以加葺草云

ハ、上ハ以鵜羽為葺草、とあはを、受たう語あり
○天津日高ハ御祖父の御名を
繼路へり、○日子波限建の日子ハ尊稱、上ハ付てよむべし、波限ハ水際、ふて、
波來去の義あり、是ハ上ハ於其海邊、波限とありふよりて、貞、終へり、建ハ尊稱
あり、○鵜葺草葺不合命、名義ハ、上ハ不見、とあり、扱不合ハ葺果さぬふきを、合ハ
訓を借のし、○

然後者、雖恨其同情、不忍戀心、因
治養ハ、日足奉
あり、○玉依毘
賣の玉ハ、御妣
の御名、ふ、おふ
ト、依ハ頼みて、
親、お意く、○獻
歌ハ、御口傳、お
奏、を云、と云て
も、閉ゆる物り

然、後、者、雖、恨、其、同、情、不、忍、戀、心、因
治、養、其、御、子、之、縁、附、其、弟、玉、依、毘
賣、而、獻、歌、之、其、歌、曰、阿、加、陀、麻、波、

賣、而、獻、歌、之、其、歌、曰、阿、加、陀、麻、波、
賣、而、獻、歌、之、其、歌、曰、阿、加、陀、麻、波、

賣、而、獻、歌、之、其、歌、曰、阿、加、陀、麻、波、
賣、而、獻、歌、之、其、歌、曰、阿、加、陀、麻、波、

賣、而、獻、歌、之、其、歌、曰、阿、加、陀、麻、波、
賣、而、獻、歌、之、其、歌、曰、阿、加、陀、麻、波、

理

つら、猶物、不書
つらて、獻、
ヤ、聞、也、是、ハ、猶、論、ひ、り、り、目、字、考、ふ、云、り、○阿、加、陀、麻、波、ハ、赤、玉、者、之、扱、玉、ハ、數
種、あり、り、む、中、ハ、赤、玉、を、珠、ハ、愛、々、む、事、此、御、歌、よ、て、ま、り、○袁、佐、間、比、迦、禮、杼、
ハ、緒、副、雖、光、ひ、て、玉、光、ハ、緒、ま、て、美、一、く、見、也、と、く、○斯、良、多、麻、能、ハ、白、玉、之、よ、て、
之、ハ、如、ま、の、意、を、含、め、たり、紀、ハ、ハ、阿、軒、娜、磨、迦、比、訶、利、播、阿、利、登、比、鄧、播、伊、瑠、耐、
と、あり、此、記、ハ、傳、た、り、方、う、る、ま、り、情、深、一、○岐、美、何、余、曾、比、斯、ハ、君、之、光、儀、
よ、て、斯、ハ、助、辭、と、扱、を、そ、ふ、と、ハ、今、の、心、詞、以、て、云、ハ、髮、衣、服、取、つ、く、ら、ふ、た、り、
ハ、方、葉、ハ、光、儀、又、容、儀、を、よ、め、り、是、等、を、誤、り、て、ス、ガ、タ、と、よ、め、る、ハ、非、ハ、ス、カ
タ、ハ、容、色、ふ、き、在、り、の、ゆ、を、云、ハ、跳、素、顏、ふ、と、准、知、べ、し、故、ハ、方、葉、ハ、も、酢、堅、為、形、須
我、多、と、書、て、光、儀、と、書、念、と、り、是、ハ、博、士、ど、つ、人、も、誤、ま
久、能、思、ふ、べ、し、○多、布、斗、久、阿、理、祁、理、ハ、尊、く、有、り、り、
○意、岐、都、登、理、
ハ、沖、津、鳥、ひ、て、
鴨、ハ、保、る、枕、詞、
あり、○加、毛、度、
久、斯、麻、通、ハ、鴨、
著、嶋、ひ、て、度、字、

爾、其、比、古、遲、以、音、答、歌、曰、意、岐、都、
登、理、加、毛、度、久、斯、麻、通、和、賀、葺、泥、
斯、伊、毛、波、和、須、禮、士、余、能、許、登、碁、

て、書りたる上

登通

の底度久御魂の処に注せり、扱鴨著嶋とハ、綿津見命の住居つる嶋にて、此嶋
るハ、水鳥の群着き居るゆゑ、名づくめり、是ハ上にも注る如く、琉球国の舊名
あるべし。○和賀韋泥斯ハ、我率寝しよて、率とハ、御身不副とめ、此を云、
伊毛波和須礼士ハ、妹をバ不忘く。○余能許登基登迹ハ、記傳ハ、契冲云、世の盡
り世とハ、御自の齡を云

○高千穂宮ハ、故日子、穂穂手見命者、坐高千穂

宮、伍佰捌拾歳、御陵者、即在其高

千穂山之西也

見命に至りて、此宮に遷坐し、よそと云り。○御陵ハ、御葬所あり。○高千穂山之
西也、諸陵式ハ、日向高屋山陵、彦火々出見尊、無陵戸、和名抄ハ、大隅国肝屬郡鷹
屋郷あり、聖蹟圖志ハ、肝屬郡、北方村、国見嶽の頂上ハ、国見權現とて社あり、火
火出見尊を祭る、是古の命の御陵ありと記せり、扱式ハ、日向高屋とありハ、大

隅国を置ざり、和銅六年

以前の舊記を記せり

○姨字鏡ハ、姨
母乎波と注せ

是天津日高日子波限建鷦草草

葺不合命娶其姨玉依毘賣命生

御子名五瀬命次稻氷命次御毛

沼命次若御毛沼命亦名豊御毛

沼命亦名神倭伊波禮毘古命

姨為妻非礼云々、漢国のさどめを以て、云ふやと云り、年治云、御姨ハ、御婚つ
るハ、元より有べき理あり、然ハ支那書を横に讀み、居る儒儒者も
かかる事を云種として、我國態を畏くも何れぬ状ハ、云腐し、誇居る
多うも中、殊不甚し、枉乃此礼、或科戸の風と云、書を何れも、此御件
事を引出て、皇国を貶卑し、其を憤り、葛花又真證、鏡等種々の書を
てハ、何れも筆意溢り、痺處ハ、手の届かぬとき、おちすれ、熟く云、えりとも

聞_レ不_レ充_レ一_レこ皇_ヲ御_ニ目_ヲ生_シ神_ノ御_ニ民_トして、内_ヲを疎_ク外_ヲを慕_フ、_レ國_ノ賊_等ハ、日_ノ大神_ノ、大_ニ御_ニ光_ノの刺_シ、_レ身_ヲを置_キ、_レ支_レ那_ノ國_ノも上_ニ代_トハ、伯_ノ叔_ノ母_ノ姉_ノ妹_等の婚_ハ、憚_リ、_レ周_ノ世_ニ至_リ始_メて、不_レ娶_リ同_ノ姓_ノの制_{アリ}、其_ハ魏_ノ書_ノ文帝_ノ紀_ニ、夏_ノ殷_ノ不_レ嫌_ハ、一_レ族_ノ之_レ婚_ヲ、周_ノ世_ニ始_メて、同_ノ姓_ノ之_レ娶_リ、斯_レ皆_レ教_ヲ隨_テ、時_ニ設_テ、治_メ、因_テ事_ヲ改_メ者_也云_々、北_ノ史_ノ文帝_ノ條_ニ、禁_ス、中_ノ外_ノ及_テ從_ニ母_ノ兄_ノ弟_ノ姉_ノ妹_ノ為_シ婚_ヲ、とある、今_ハ於_テ、海_ノ暴_ノ難_ノ會_ニ云_々、絶_レく_レ猶_レ委_キ、_レ西_ノ籍_ノ新_ノ論_ニ引_キ出_テ論_ヲお_レり、_レ五_ノ瀬_ノ命_ハ、嚴_ノ兄_ニある、_レ一_レ門_ノ人_ノ豐_ノ田_ノ嚴_ノ稱_ニ云_々、近_ノ頃_ノ作_リ出_タ、内_ノ外_ノ一_レ覽_ト云_々、書_ニ、日_ノ向_ニ國_ニ五_ノ瀬_ノ川_ト云_々、名_ヲを舉_ゲ、_レ是_ハふ_レより、_レた_ル御_ノ名_ニふ_レ、_レち_レと_レ云_々、_レ稻_ノ水_ノ命_、紀_ニ、稻_ノ飯_ニ作_リ、_レ稱_ニ、名_ヲある、_レ一_レ〇_レ御_ノ毛_ノ沼_ノ命_、記_ニ、傳_ニ、御_ノ食_ニ主_ニあり、_レと_レ云_々、_レ〇_レ若_ノ御_ノ毛_ノ沼_ノ命_、御_ノ兄_ニ對_シて、若_トハ申_セり、_レ〇_レ豐_ノ御_ノ毛_ノ沼_ノ命_、豐_ハ稱_ニ、名_ヲあり、_レ〇_レ神_ノ倭_ノ伊_ノ波_ノ礼_、昆_ノ古_ノ命_ハ、天_ノ下_ノ知_レ、_レ食_テ、_レの稱_ニ、名_ヲあり、_レ伊_ノ波_ノ礼_ハ、大_ノ和_ノ國_ノ十_ノ市_ノ郡_ノの地_ノ名_ヲあり、_レ紀_ニ、一_レ名_、狹_ノ野_ノ尊_トあり、

〇常_ノ世_ノ國_ノ上_ニみ
注_リ、〇入_ニ坐_シ海_ニ
原_ハ、御_ノ母_ノの國_ニ
〇往_テ、_レ海_ノ原_トハ、野_ノ原_ハ
河_ノ原_ノの例_ニあり、
原也

故御毛沼命者跳波穗渡坐于常
世國稻水命者爲妣國而一坐海

海面を云、是を賦て海底ありとせば、野原ハ野の地中み
竟べ、まの渡坐、入坐、_レ紀_ニ、詳_ニあれど、爰_ニハ略_キつ

古事記標注上卷之下 終

